

# 1

## 生命保険（個人年金保険を含む）の加入状況

### （1）加入率（個人年金保険を含む）

#### （1）世帯加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、世帯員の少なくとも一人以上が生命保険に加入している世帯の割合を示している。例えば、世帯員のうち一人が生命保険に加入している世帯も二人が生命保険に加入している世帯も生命保険加入世帯1としてカウントすることになる。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯加入率} = \frac{\text{世帯員の少なくとも一人以上が加入している世帯数}}{\text{全回答世帯数}} \times 100$$

また、全生保世帯加入率とは世帯員の一人以上が、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等の4機関のうちいずれかに加入している世帯の割合を示している。（以下同様）したがって、民保に加入している世帯も民保と簡保両方に加入している世帯も生命保険加入世帯1としてカウントするので、前述の4機関のそれぞれの世帯加入率を合計しても全生保世帯加入率とはならない。

#### （2）世帯主の加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、世帯主が加入している割合を示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の加入率} = \frac{\text{世帯主が加入している世帯数}}{\text{全回答世帯数}} \times 100$$

4機関の世帯主加入率を合計しても全生保世帯主加入率とならないのは、前述と同様である。

#### （3）妻の加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうちで世帯主が男性でかつ配偶者のいる世帯における、配偶者の生命保険に加入している割合を示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{妻の加入率} = \frac{\text{妻（男性世帯主の配偶者）が加入している世帯数}}{\text{本調査に回答した男性世帯主で配偶者のいる世帯数}} \times 100$$

4機関の妻の加入率を合計しても全生保の妻の加入率とならないのは、前述と同様である。

#### (4) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率とは

子ども（未婚で就学前・就学中）が生命保険に加入している割合のことで、次の式で算出している。

$$\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率} = \frac{\text{生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}}{\text{本調査に回答した子ども（未婚で就学前・就学中）がいる世帯での子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}} \times 100$$

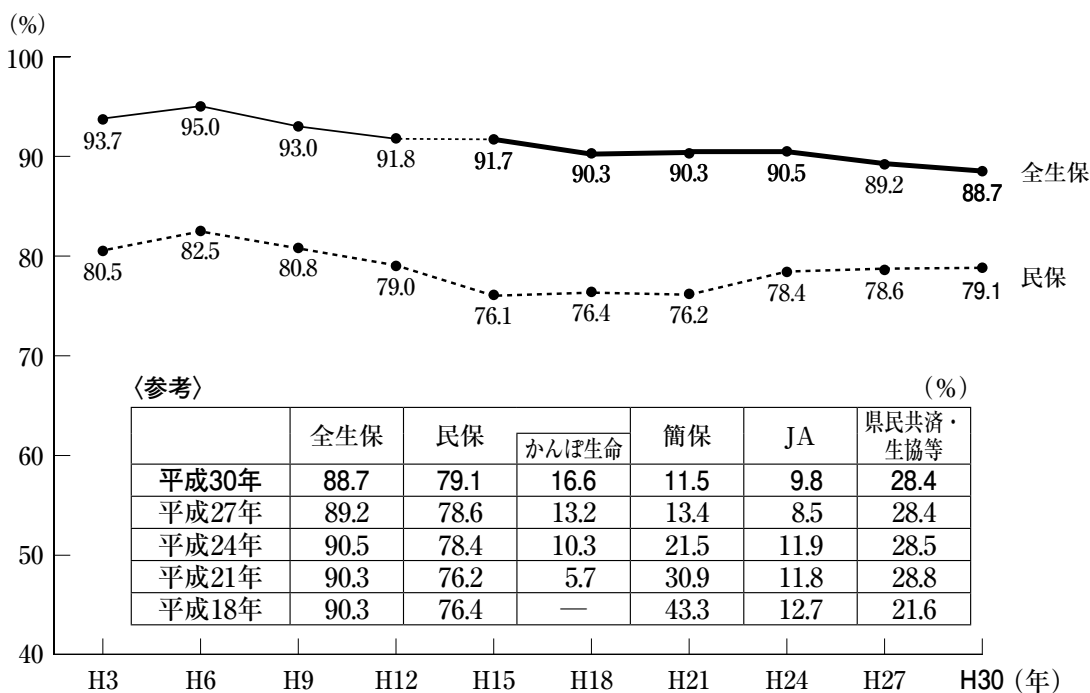
4機関の子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率を合計しても全生保の子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率とならないのは、前述と同様である。

#### (ア) 世帯加入率（個人年金保険を含む）

生命保険の世帯加入率は全生保で88.7%（前回89.2%）、民保で79.1%（前回78.6%）となっている。

時系列でみると、全生保で平成24年以降減少傾向が続いている。一方、民保では平成21年以降増加傾向が続いている。（図表 I - 1）

〈図表 I - 1〉 世帯加入率の推移

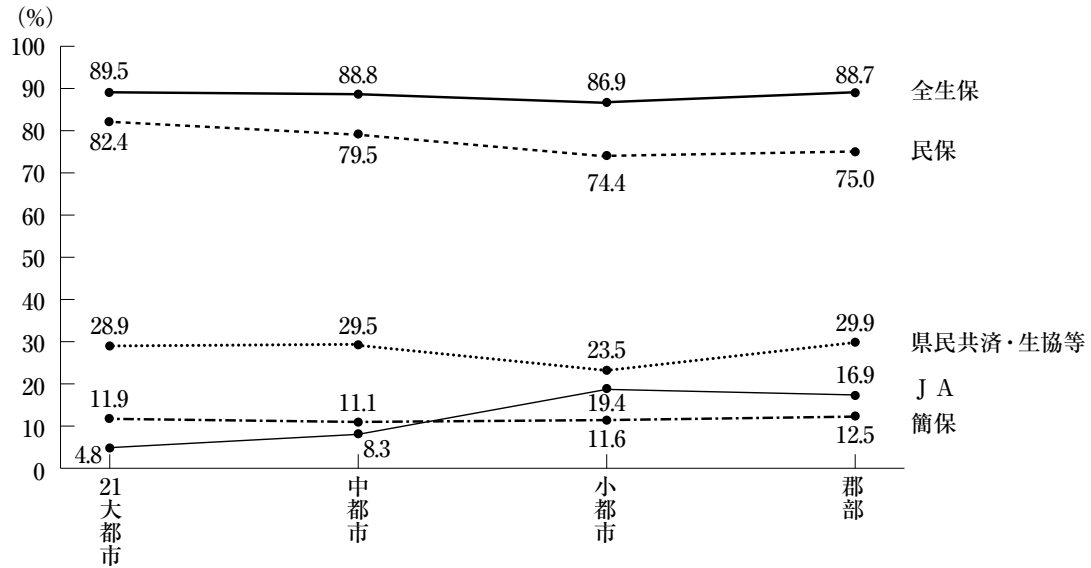


\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* 全生保の平成12年以前は民保、簡保、JAの計

市郡規模別にみると、民保では「21大都市」で82.4%と高くなっている。また、JAは「小都市」(19.4%)、「郡部」(16.9%)で高くなっている。(図表I-2)

〈図表I-2〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率(市郡規模別)



\* 全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

全生保の世帯加入率について世帯主年齢別にみると、「40～44歳」から「60～64歳」にかけて90%を超えている。

時系列で見ると、「80～84歳」では平成18年から一貫して増加傾向が続いており、平成18年に比べ20ポイント以上増加している。(図表I-3)

〈図表I-3〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率（全生保）（世帯主年齢別）  
(%)

	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年
全 体	90.3	90.3	90.5	89.2	88.7
29歳以下	76.8	71.6	76.6	77.5	79.2
30～34歳	93.6	86.9	89.2	86.7	86.7
35～39歳	93.5	91.7	93.4	93.3	88.7
40～44歳	95.0	93.9	92.2	91.4	92.4
45～49歳	93.3	95.3	95.1	95.2	93.3
50～54歳	96.2	96.1	95.4	92.8	93.5
55～59歳	93.8	93.8	96.3	96.1	94.1
60～64歳	92.8	94.3	91.9	91.2	92.1
65～69歳	89.0	93.3	92.3	91.2	89.5
70～74歳	85.7	86.7	87.0	89.0	88.4
75～79歳	80.6	77.2	84.8	79.9	82.3
80～84歳	53.4	66.9	67.8	71.1	76.9
85～89歳	57.1	61.8	64.3	68.4	69.5
90歳以上	36.4	72.7	55.6	52.2	71.4

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯加入率について世帯主年齢別にみると、「30～34歳」から「60～64歳」にかけて、および「70～74歳」で80%を超えている。

時系列でみると、「29歳以下」と「30～34歳」で平成21年から、「70～74歳」から「85～89歳」で平成24年から、それぞれ増加傾向が続いている。(図表 I - 4)

〈図表 I - 4〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率（民保）（世帯主年齢別）  
(%)

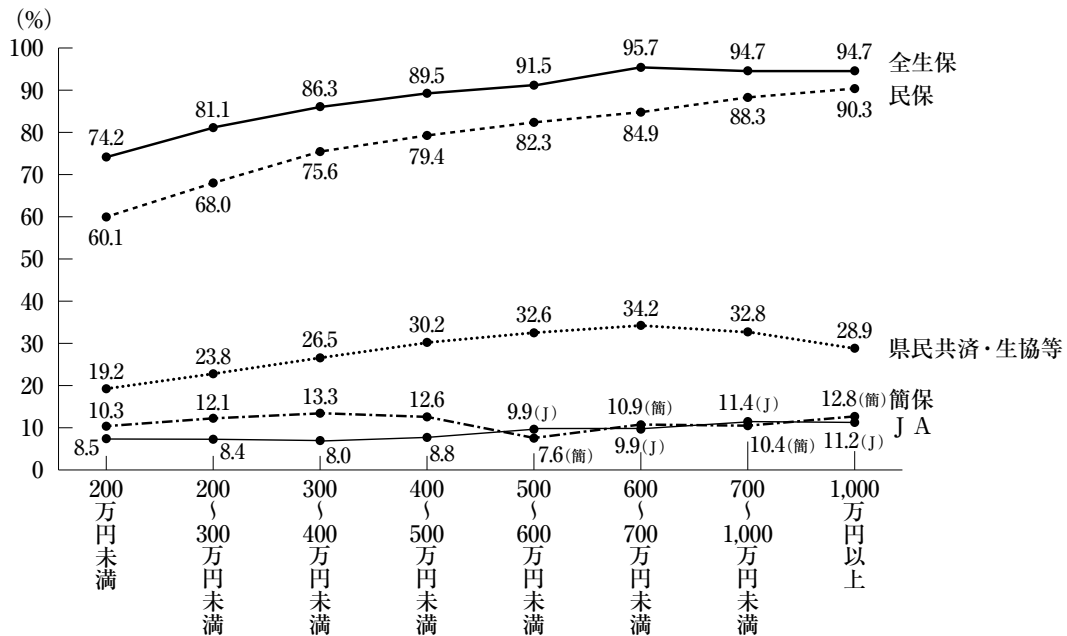
	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年
全 体	76.4	76.2	78.4	78.6	79.1
29歳以下	70.4	55.6	57.1	63.8	72.2
30～34歳	78.3	70.1	74.0	79.8	81.4
35～39歳	83.6	76.2	81.7	82.7	80.0
40～44歳	86.0	84.5	81.3	81.2	84.5
45～49歳	83.2	86.7	85.5	86.2	86.0
50～54歳	81.6	86.4	86.3	84.7	85.1
55～59歳	80.7	80.6	85.3	85.3	83.9
60～64歳	79.3	78.3	79.4	79.2	81.4
65～69歳	74.2	76.4	79.3	76.8	76.4
70～74歳	64.4	70.9	76.3	78.9	80.6
75～79歳	57.8	60.6	68.9	70.7	72.5
80～84歳	41.1	51.2	52.6	62.1	64.5
85～89歳	39.3	38.2	47.6	57.9	58.1
90歳以上	18.2	54.5	44.4	43.5	57.1

\* かんぽ生命を含む

\* 90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別に見ると、全生保と民保ともに概ね世帯年収が高くなるほど加入率が高く、特に「600万円以上」の層で高い割合となっている。また、県民共済・生協等では「500～600万円未満」から「700～1,000万円未満」の層で高くなっている。(図表 I - 5)

〈図表 I - 5〉 生命保険・個人年金保険の世帯加入率 (世帯年収別)



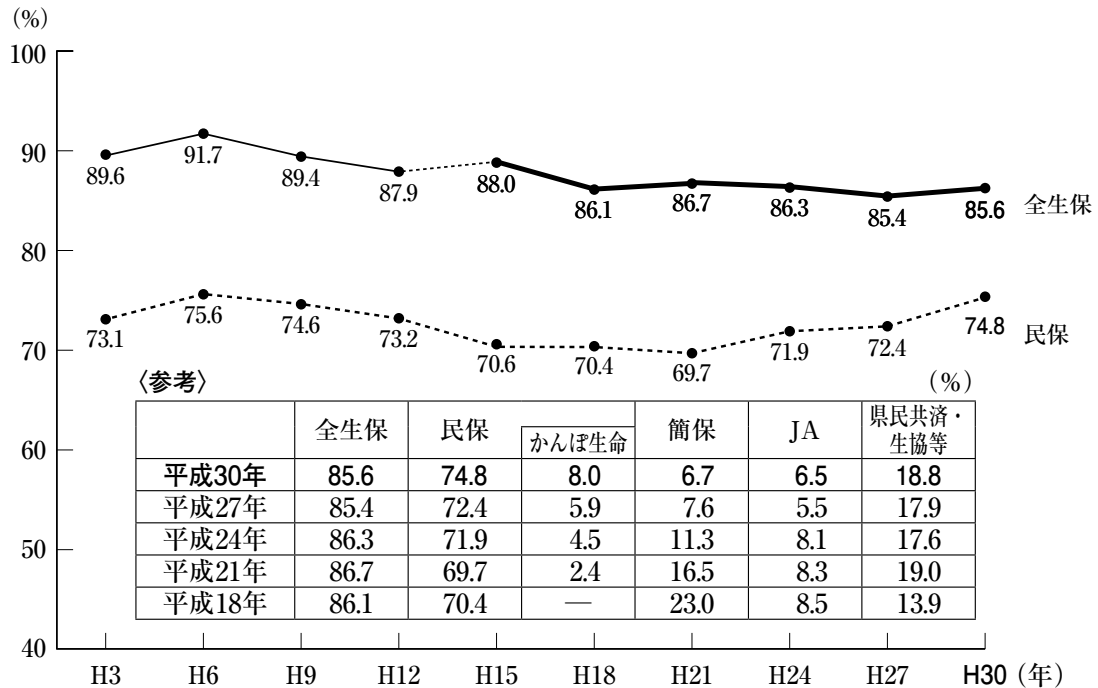
\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 世帯員の加入率（個人年金保険を含む）

(a) 世帯主の加入率（個人年金保険を含む）

世帯主の加入率は全生保で85.6%（前回85.4%）、民保で74.8%（前回72.4%）となっている。  
時系列でみると、民保は平成21年以降増加傾向が続いている。（図表 I - 6）

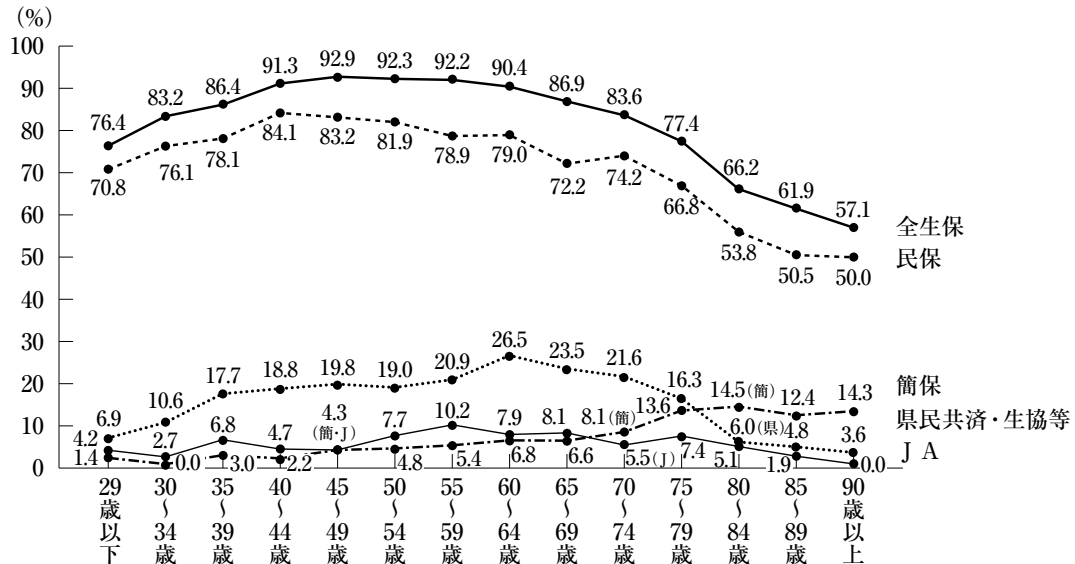
〈図表 I - 6〉 世帯主の加入率の推移



\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
\*全生保の平成12年以前は民保、簡保、JAの計

世帯主年齢別にみると、全生保では「40～44歳」から「60～64歳」で9割を超え高くなっている。民保では「40～44歳」から「50～54歳」で8割を超えて高くなっている。県民共済・生協等では「60～64歳」は26.5%、「65～69歳」は23.5%と高くなっている。(図表I-7)

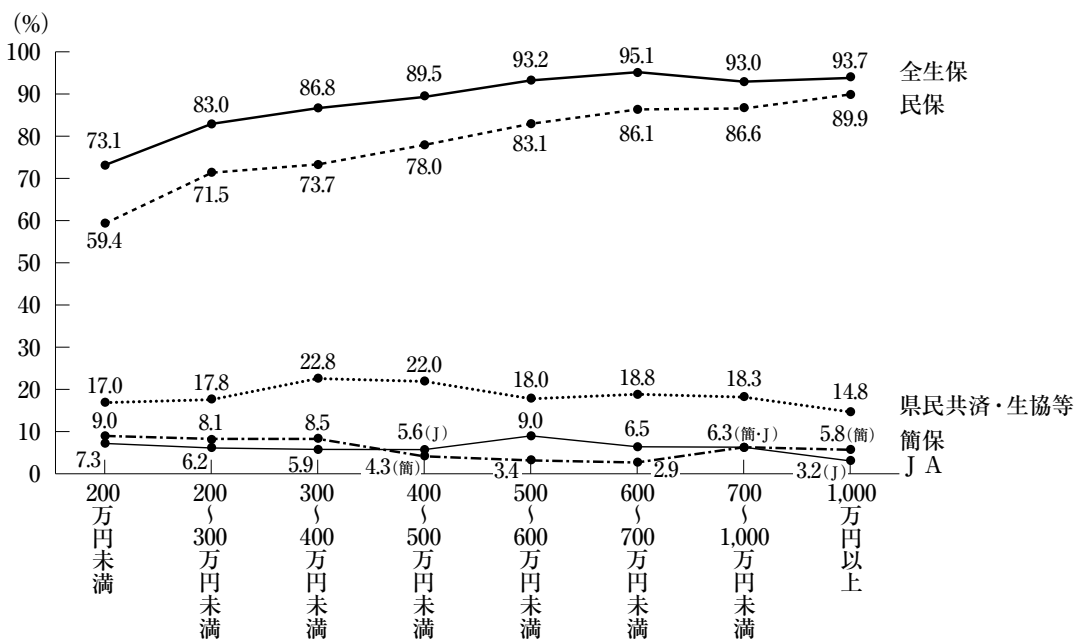
〈図表I-7〉 世帯主の加入率（世帯主年齢別）



\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
\*90歳以上はサンプルが30未満

世帯主年収別にみると、全生保と民保ともに概ね年収が高くなるほど加入率が高く、特に全生保で「400万円以上」の層、民保で「500万円以上」の層で、それぞれ高い割合となっている。(図表I-8)

〈図表I-8〉 世帯主の加入率（世帯主年収別）



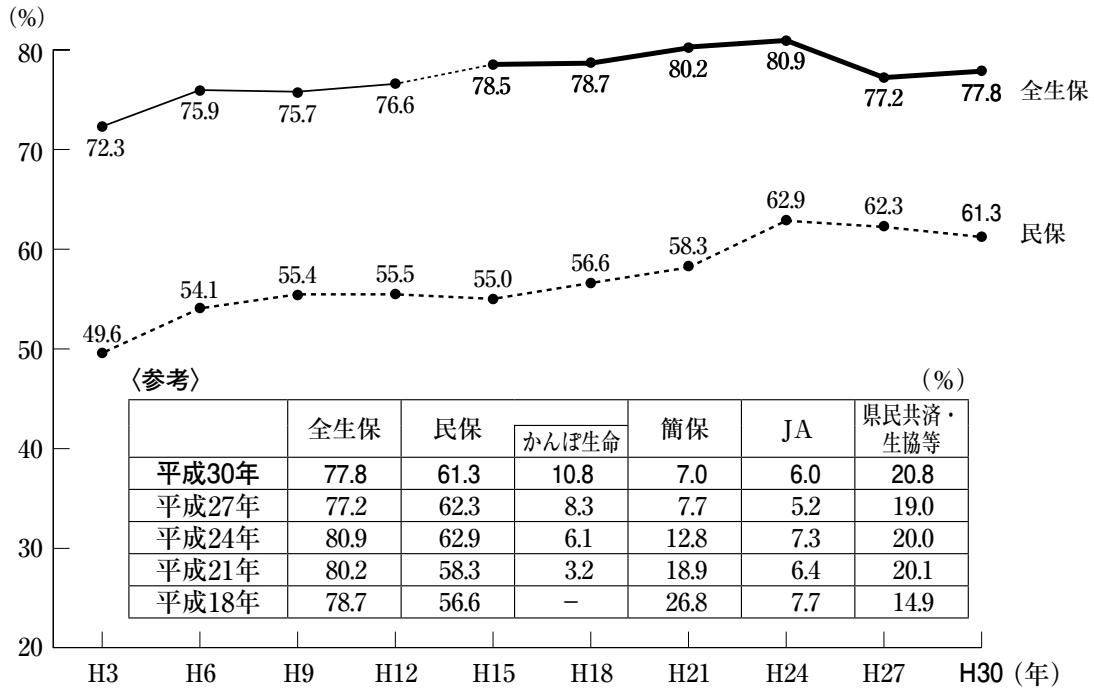
\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む



(b) 妻（男性世帯主の配偶者）の加入率（個人年金保険を含む）

妻の加入率は全生保で77.8%（前回77.2%）、民保で61.3%（前回62.3%）となっている。前回と比較すると大きな差異はみられなかった。（図表 I - 9）

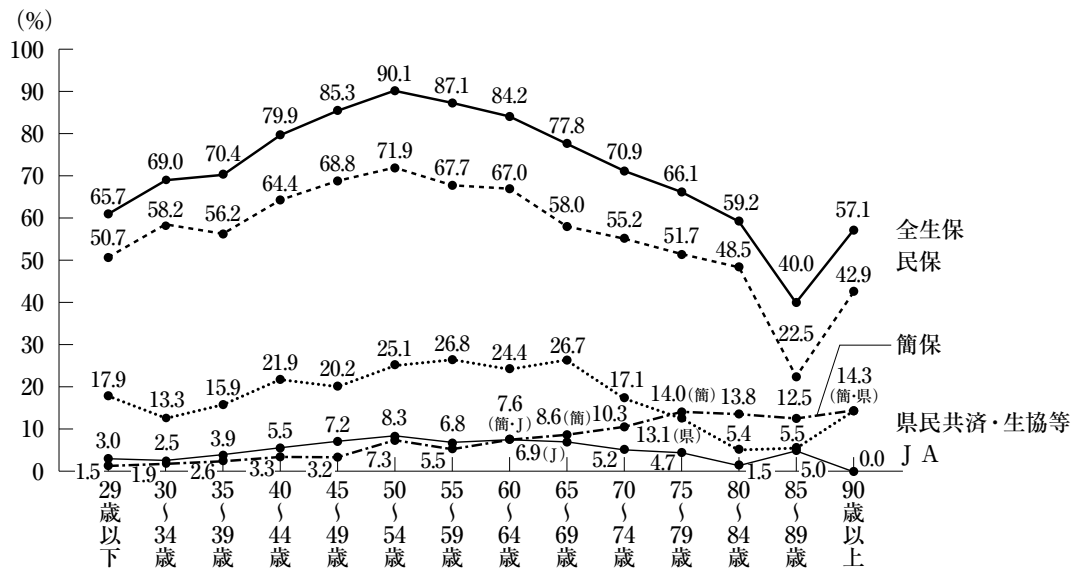
〈図表 I - 9〉 妻の加入率の推移



\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
 \* 全生保の平成12年以前は民保、簡保、JAの計

妻の年齢別にみると、全生保、民保ともに「45～49歳」から「60～64歳」で高くなっている。県民共済・生協等では「55～59歳」は26.8%、「65～69歳」で26.7%と高くなっている。(図表 I - 10)

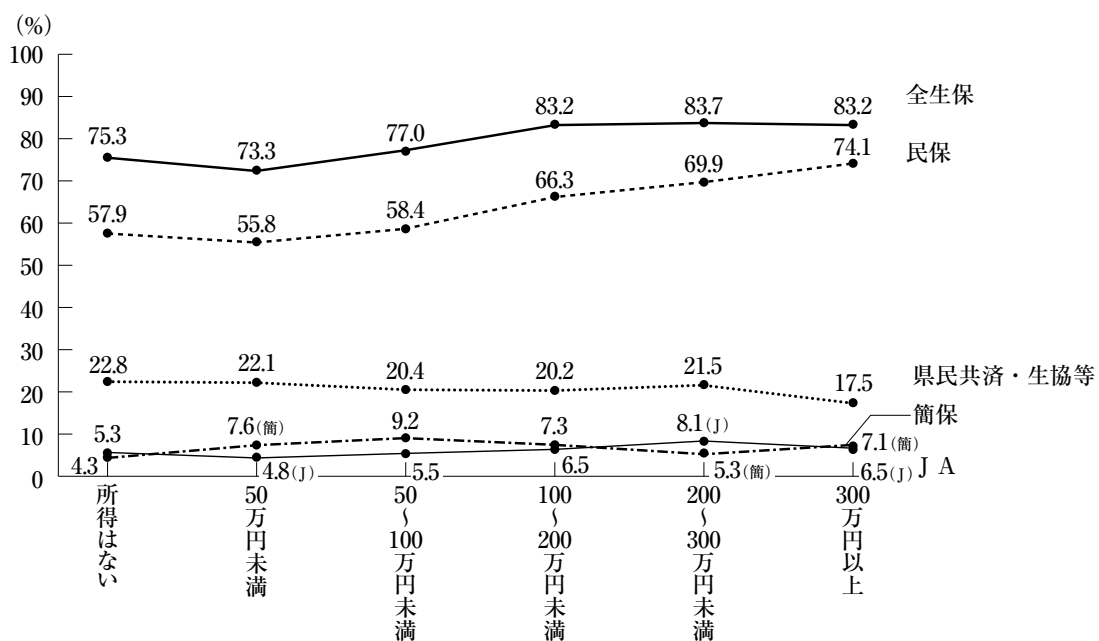
〈図表 I - 10〉 妻の加入率 (妻の年齢別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
\*90歳以上はサンプルが30未満

妻の年収別にみると、概ね年収が高くなるほど加入率が高く、全生保では「100万円以上」の層で8割を超えている。民保でも同様の傾向がみられ、「300万円以上」では7割を超えている。(図表 I - 11)

〈図表 I - 11〉 妻の加入率 (妻の年収別)



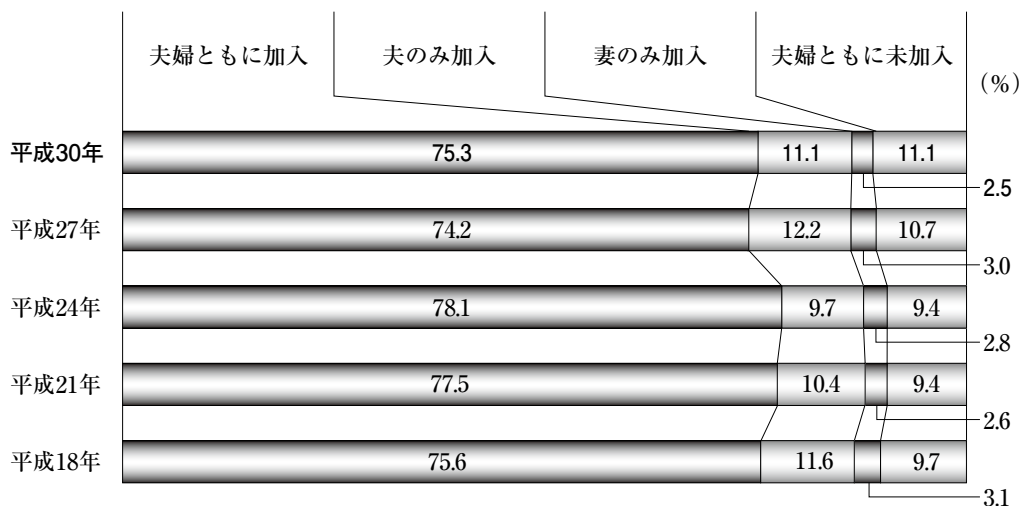
\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(c) 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（個人年金保険を含む）

男性世帯主で配偶者がいる世帯における夫婦の加入形態をみると、「夫婦ともに加入」は75.3%（前回74.2%）、「夫のみ加入」は11.1%（前回12.2%）となっている。

前回と比較すると大きな差異はみられなかった。（図表 I - 12）

〈図表 I - 12〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態



\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

夫の年齢別にみると、「夫婦ともに加入」は「45～49歳」から「60～64歳」で8割を超えて高くなっている。「夫婦ともに未加入」は「29歳以下」（20.0%）および「80歳以上」の層で2割以上となっている。（図表 I - 13）

〈図表 I - 13〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（夫の年齢別）  
(%)

	夫婦ともに加入	夫のみ加入	妻のみ加入	夫婦ともに未加入
全 体	75.3	11.1	2.5	11.1
29歳以下	61.7	15.0	3.3	20.0
30～34歳	66.0	18.0	3.0	13.0
35～39歳	71.7	15.5	1.2	11.6
40～44歳	77.3	15.3	1.2	6.3
45～49歳	82.4	11.4	0.4	5.8
50～54歳	86.6	7.0	1.5	5.0
55～59歳	85.8	8.1	1.3	4.8
60～64歳	83.7	7.1	1.2	8.0
65～69歳	78.2	9.9	2.1	9.9
70～74歳	72.2	11.9	4.2	11.7
75～79歳	64.4	12.4	5.3	18.0
80～84歳	54.0	12.0	8.5	25.5
85～89歳	49.4	10.6	3.5	36.5
90歳以上	52.6	5.3	5.3	36.8

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、「夫婦ともに加入」は概ね世帯年収が高くなるほど高く、「600万円以上」の層では8割を超えている。逆に「夫婦ともに未加入」は、概ね世帯年収が低くなるほど高く、「200万円未満」（26.1％）では2割を超えている。（図表 I - 14）

〈図表 I - 14〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（世帯年収別）  
(%)

	夫婦ともに加入	夫のみ加入	妻のみ加入	夫婦ともに未加入
全 体	75.3	11.1	2.5	11.1
200万円未満	58.4	12.4	3.1	26.1
200～300万円未満	64.7	12.1	3.8	19.3
300～400万円未満	72.1	11.4	3.2	13.3
400～500万円未満	77.4	10.8	2.0	9.8
500～600万円未満	79.5	10.0	1.8	8.7
600～700万円未満	81.0	11.0	3.7	4.4
700～1,000万円未満	80.7	12.4	1.0	5.9
1,000万円以上	84.2	9.1	1.7	5.0

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(d) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率（個人年金保険を含む）

調査対象世帯の子ども（未婚で就学前・就学中）の総数に占める加入率（全生保）は51.1％（前回52.9％）となっている。

機関別にみると、民保18.5％（前回22.2％）、かんぽ生命5.5％（前回5.9％）、簡保3.1％（前回4.9％）、JA2.6％（前回2.6％）、県民共済・生協等18.7％（前回19.7％）となっている。（図表 I - 15）

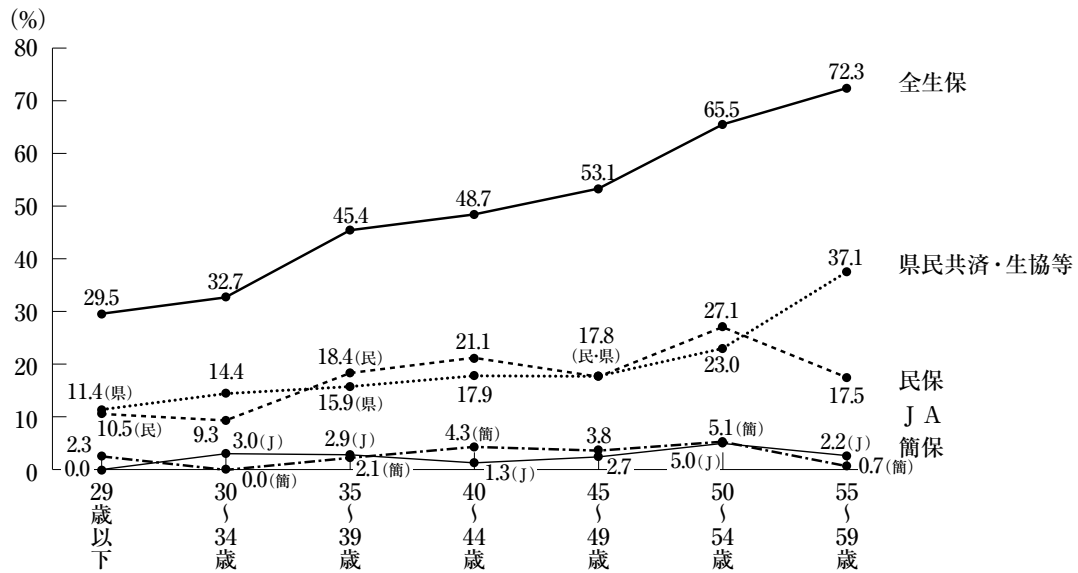
〈図表 I - 15〉 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率  
(%)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
平成30年	51.1	18.5	5.5	3.1	2.6	18.7
平成27年	52.9	22.2	5.9	4.9	2.6	19.7
平成24年	54.8	22.1	4.5	9.0	3.5	19.4
平成21年	55.0	22.4	2.3	14.5	4.3	16.6
平成18年	55.9	30.8	—	25.2	3.2	15.3

\*全生保は民保（かんぽ生命を除く）、かんぽ生命、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保は「55～59歳」で最も高く72.3%となっており、民保は「50～54歳」で最も高く27.1%となっている。(図表 I - 16)

〈図表 I - 16〉 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率（世帯主年齢別）



\*全生保は民保（かんぽ生命を除く）、かんぽ生命、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
 \*「60～64歳」から「90歳以上」はサンプル数が少ないため削除

## (2) 加入件数（個人年金保険を含む）

### (1) 世帯加入件数とは

生命保険に加入している世帯で平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯加入件数} = \frac{\text{全世帯員の総加入件数}}{\text{生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約や連生保険（年金）などのように一つの保険で複数の人が保障されている場合は、一件としてカウントしている。

### (2) 世帯主の加入件数とは

世帯主が生命保険に加入している世帯で、世帯主が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の加入件数} = \frac{\text{世帯主の総加入件数}}{\text{世帯主が生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、世帯主が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

### (3) 妻の加入件数とは

妻（男性世帯主の配偶者）が生命保険に加入している世帯で、妻が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{妻の加入件数} = \frac{\text{妻の総加入件数}}{\text{妻が生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、妻が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

### (4) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数とは

生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数} = \frac{\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の総加入件数}}{\text{生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、子ども（未婚で就学前・就学中）が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(ア) 世帯加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険加入世帯の平均加入件数（全生保）は3.9件（前回3.8件）となっている。

機関別にみると、民保3.2件（前回3.1件）、簡保1.8件（前回1.8件）、JA2.1件（前回2.0件）、県民共済・生協等2.1件（前回2.2件）となっている。

時系列でみると、大きな差異はみられなかった。（図表 I - 17）

〈図表 I - 17〉 世帯加入件数

(件)

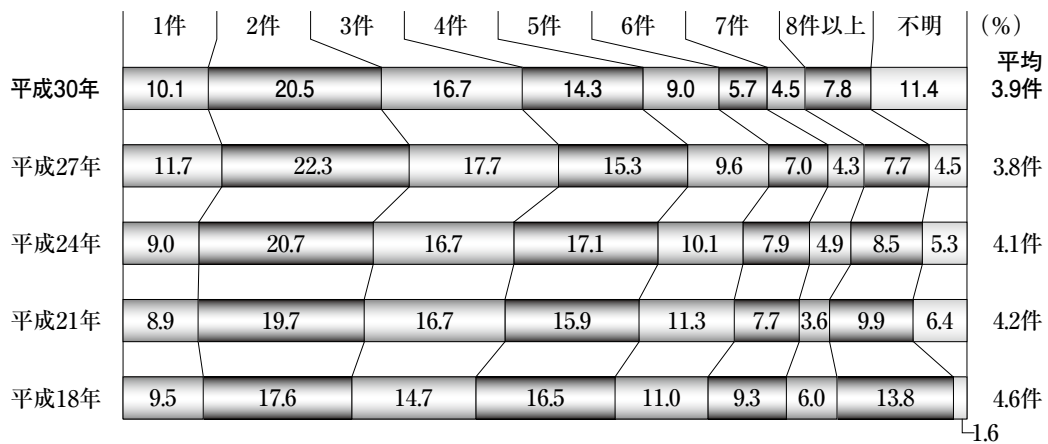
	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	J A	県民共済・ 生協等
平成30年	3.9 (+0.1)	3.2 (+0.1)	1.8 (▲0.1)	1.8 ( 0.0)	2.1 (+0.1)	2.1 (▲0.1)
平成27年	3.8 (▲0.3)	3.1 ( 0.0)	1.9 (+0.2)	1.8 (▲0.1)	2.0 (▲0.3)	2.2 ( 0.0)
平成24年	4.1 (▲0.1)	3.1 (+0.2)	1.7 ( 0.0)	1.9 (▲0.3)	2.3 ( 0.0)	2.2 ( 0.0)
平成21年	4.2 (▲0.4)	2.9 (▲0.2)	1.7 —	2.2 (▲0.1)	2.3 ( 0.0)	2.2 (▲0.1)
平成18年	4.6 ( 0.0)	3.1 (+0.1)	— —	2.3 (▲0.2)	2.3 (▲0.1)	2.3 (+0.1)

\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* ( ) は前回調査との差

世帯加入件数（全生保）の分布をみると、「2件」が20.5%と最も多く、次いで「3件」16.7%、「4件」14.3%となっている。（図表 I - 18）

〈図表 I - 18〉 世帯加入件数（全生保）



\* 全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む



市郡規模別にみると、全生保、民保では「21大都市」が最も多くそれぞれ4.0件、3.4件、JAでは「中都市」が最も多く2.3件となっている。(図表I-19)

〈図表I-19〉 世帯加入件数（市郡規模別）

(件)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	3.9	3.2	1.8	2.1	2.1
21大都市	4.0	3.4	1.8	1.6	2.1
中 都 市	3.9	3.2	1.7	2.3	2.2
小 都 市	3.8	3.1	1.7	2.1	2.0
郡 部	3.9	3.0	2.0	2.2	2.2

\*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保では「35～39歳」から「55～59歳」で4件を超えている。(図表I-20)

〈図表I-20〉 世帯加入件数（世帯主年齢別）

(件)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	3.9	3.2	1.8	2.1	2.1
29歳以下	3.2	2.9	(4.0)	(1.0)	(1.7)
30～34歳	3.7	3.2	(1.0)	(1.6)	(2.2)
35～39歳	4.2	3.5	(1.6)	(1.9)	2.7
40～44歳	4.3	3.7	(2.4)	(2.1)	2.2
45～49歳	4.4	3.6	2.0	2.0	2.5
50～54歳	4.4	3.5	(1.9)	(2.5)	2.2
55～59歳	4.2	3.4	1.7	2.6	2.0
60～64歳	3.9	3.2	2.1	2.4	2.0
65～69歳	3.6	3.0	1.9	2.0	2.0
70～74歳	3.5	2.8	1.5	2.2	2.1
75～79歳	3.6	2.9	1.7	1.7	1.9
80～84歳	3.2	2.9	1.5	(1.6)	1.5
85～89歳	3.0	2.9	(1.4)	(1.0)	(1.7)
90歳以上	(2.8)	(2.8)	(1.8)	(0.0)	(1.5)

\*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

世帯年収別にみると、全生保では、世帯年収が高くなるほど加入件数が多く、世帯年収「1,000万円以上」では全生保が5.4件、民保が4.4件となっている。(図表 I - 21)

〈図表 I - 21〉 世帯加入件数 (世帯年収別)

(件)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	3.9	3.2	1.8	2.1	2.1
200万円未満	2.7	2.3	1.5	1.8	2.0
200～300万円未満	3.1	2.6	1.6	2.0	2.1
300～400万円未満	3.3	2.8	1.8	1.8	1.9
400～500万円未満	3.8	3.1	1.7	1.9	2.2
500～600万円未満	4.0	3.3	1.8	2.2	2.2
600～700万円未満	4.2	3.4	2.0	2.1	2.3
700～1,000万円未満	4.3	3.5	1.7	2.3	2.3
1,000万円以上	5.4	4.4	2.2	2.7	2.2

\*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 世帯員の加入件数 (個人年金保険を含む)

(a) 世帯主の加入件数 (個人年金保険を含む)

生命保険に加入している世帯主の平均加入件数(全生保)は、1.9件(前回1.7件)となっている。

機関別にみると、民保1.7件(前回1.6件)、簡保1.2件(前回1.2件)、JA1.3件(前回1.2件)、県民共済・生協等1.1件(前回1.2件)となっている。(図表 I - 22)

〈図表 I - 22〉 世帯主の加入件数

(件)

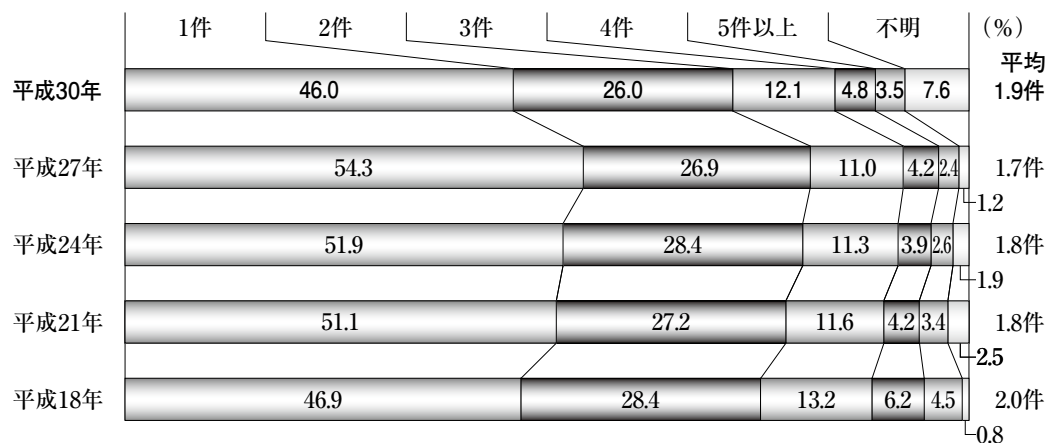
	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
平成30年	1.9 (+0.2)	1.7 (+0.1)	1.2 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)	1.3 (+0.1)	1.1 (▲0.1)
平成27年	1.7 (▲0.1)	1.6 (+0.1)	1.2 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)	1.2 (▲0.1)	1.2 ( 0.0)
平成24年	1.8 ( 0.0)	1.5 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)	1.2 (▲0.1)	1.3 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)
平成21年	1.8 (▲0.2)	1.5 (▲0.1)	1.2 —	1.3 (▲0.1)	1.3 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)
平成18年	2.0 (+0.1)	1.6 (+0.1)	— —	1.4 ( 0.0)	1.3 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* ( ) は前回調査との差

世帯主の加入件数（全生保）の分布をみると、「1件」が46.0%と最も多く、「2件」（26.0%）が続いている。（図表 I - 23）

〈図表 I - 23〉 世帯主の加入件数（全生保）



\*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保では「40～44歳」、「45～49歳」および「75～79歳」で2.0件と最も多くなっている。（図表 I - 24）

〈図表 I - 24〉 世帯主の加入件数（世帯主年齢別）

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全体	1.9	1.7	1.2	1.3	1.1
29歳以下	1.8	1.8	(1.0)	(1.0)	(1.2)
30～34歳	1.9	1.9	(0.0)	(1.3)	(1.2)
35～39歳	1.9	1.8	(1.0)	(1.1)	1.3
40～44歳	2.0	1.9	(1.3)	(1.6)	1.1
45～49歳	2.0	1.9	(1.3)	(1.5)	1.3
50～54歳	1.8	1.7	(1.3)	(1.4)	1.2
55～59歳	1.9	1.7	(1.4)	1.5	1.1
60～64歳	1.9	1.6	(1.4)	(1.3)	1.1
65～69歳	1.8	1.6	1.3	1.1	1.1
70～74歳	1.8	1.6	1.1	(1.1)	1.1
75～79歳	2.0	1.7	1.3	(1.4)	1.1
80～84歳	1.7	1.6	1.1	(1.1)	(1.0)
85～89歳	1.6	1.6	(1.0)	(1.0)	(1.0)
90歳以上	(1.7)	(1.7)	(1.0)	(0.0)	(1.0)

\*全生保は、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

(b) 妻の加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険に加入している妻の平均加入件数（全生保）は、1.7件（前回1.6件）となっている。

機関別にみると、民保1.5件（前回1.4件）、簡保1.2件（前回1.2件）、JA1.2件（前回1.2件）、県民共済・生協等1.1件（前回1.1件）となっている。（図表 I - 25）

〈図表 I - 25〉 妻の加入件数

(件)

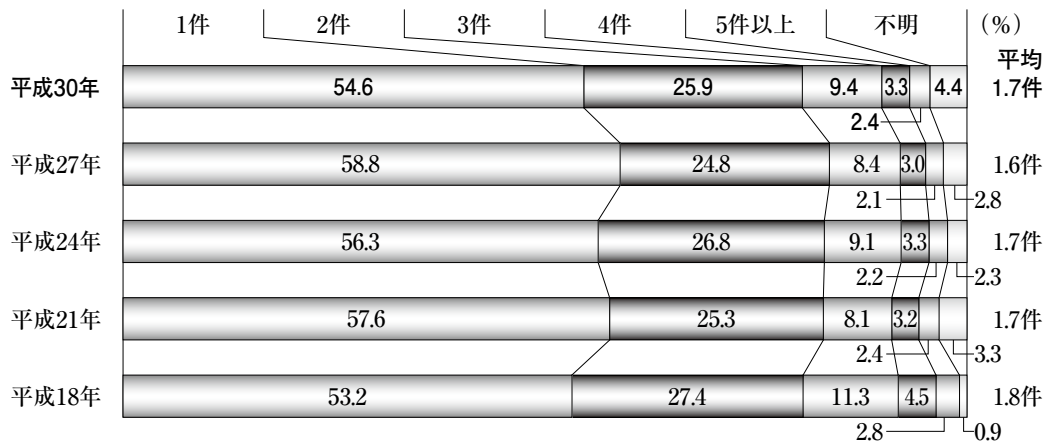
	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
平成30年	1.7 (+0.1)	1.5 (+0.1)	1.3 (+0.1)	1.2 ( 0.0)	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)
平成27年	1.6 (▲0.1)	1.4 ( 0.0)	1.2 (+0.1)	1.2 (▲0.1)	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)
平成24年	1.7 ( 0.0)	1.4 (+0.1)	1.1 ( 0.0)	1.3 (▲0.1)	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)
平成21年	1.7 (▲0.1)	1.3 (▲0.1)	1.1 —	1.4 (+0.1)	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)
平成18年	1.8 ( 0.0)	1.4 (+0.1)	— —	1.3 (▲0.1)	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*（ ）は前回調査との差

妻の加入件数（全生保）の分布をみると、「1件」が54.6%と半数を超えて最も多くなっている。（図表 I - 26）

〈図表 I - 26〉 妻の加入件数（全生保）



\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

妻の年齢別にみると、全生保は「65～69歳」、「75～79歳」、「80～84歳」の層でいずれも1.8件と最も多くなっている。(図表 I - 27)

〈図表 I - 27〉 妻の加入件数 (妻の年齢別)

	全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
全 体	1.7	1.5	1.2	1.2	1.1
29歳以下	1.4	1.3	(1.0)	(2.0)	(1.1)
30～34歳	1.5	1.5	(1.0)	(1.0)	(1.1)
35～39歳	1.5	1.5	(1.2)	(1.0)	1.1
40～44歳	1.7	1.6	(1.2)	(1.1)	1.1
45～49歳	1.5	1.5	(1.1)	(1.1)	1.1
50～54歳	1.7	1.5	(1.3)	(1.2)	1.1
55～59歳	1.7	1.6	(1.2)	(1.5)	1.1
60～64歳	1.7	1.5	1.6	1.1	1.1
65～69歳	1.8	1.6	1.2	1.3	1.1
70～74歳	1.7	1.5	1.3	(1.2)	1.0
75～79歳	1.8	1.7	1.2	(1.0)	1.1
80～84歳	1.8	1.7	(1.1)	(1.0)	(1.1)
85～89歳	(1.6)	(1.7)	(1.0)	(1.0)	(1.5)
90歳以上	(1.5)	(1.3)	(1.0)	(—)	(1.0)

\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
\*サンプルが30未満のものについては ( ) で表示

(c) 子ども (未婚で就学前・就学中) の加入件数 (個人年金保険を含む)

生命保険に加入している子ども (未婚で就学前・就学中) の平均加入件数 (全生保) は、1.2件 (前回1.2件) となっている。

機関別にみると、民保1.1件 (前回1.1件)、かんぽ生命1.1件 (前回1.1件)、簡保1.1件 (前回1.0件)、JA1.1件 (前回1.0件)、県民共済・生協等1.0件 (前回1.0件) となっている。(図表 I - 28)

〈図表 I - 28〉 子ども (未婚で就学前・就学中) の加入件数

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
平成30年	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.1 (+0.1)	1.1 (+0.1)	1.0 ( 0.0)
平成27年	1.2 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.0 (▲0.1)	1.0 (▲0.1)	1.0 ( 0.0)
平成24年	1.2 (▲0.1)	1.1 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.0 ( 0.0)
平成21年	1.3 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.1 —	1.1 ( 0.0)	1.1 ( 0.0)	1.0 ( 0.0)
平成18年	1.3 (+0.1)	1.1 ( 0.0)	— —	1.1 ( 0.0)	1.1 (+0.1)	1.0 ( 0.0)

\*全生保は民保 (かんぽ生命を除く)、かんぽ生命、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
\* ( ) は前回調査との差

### (3) 加入金額

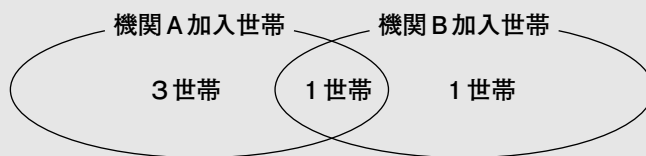
#### (1) 世帯加入金額とは

普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している各世帯における、その保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯の普通死亡保険金額} = \frac{\text{全世帯員の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

家族特約などにより複数の世帯員が保障されている場合には、その金額も世帯加入金額に含まれている。

なお、全生保の世帯加入金額は、4機関（民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等）のうちいずれかに加入している世帯の平均加入金額であるため、平均金額の低い機関の世帯加入金額にひきずられて特定の1機関の世帯加入金額より全生保の加入金額が下回ることもある。たとえば機関Aに加入している4世帯がいずれも加入金額50万円、機関Bに加入している2世帯がいずれも加入金額1,000万円、うちA、B双方の機関に加入している世帯が1世帯であるとする、機関Aの平均加入金額は50万円、機関Bの平均加入金額は1,000万円、全生保の平均加入金額は440万円となる。



$$\text{機関Aの世帯加入金額} = \frac{50\text{万円} \times 4\text{世帯}}{\text{全}4\text{世帯}} = 50\text{万円}$$

$$\text{機関Bの世帯加入金額} = \frac{1,000\text{万円} \times 2\text{世帯}}{\text{全}2\text{世帯}} = 1,000\text{万円}$$

$$\text{全生保の世帯加入金額} = \frac{(50\text{万円} \times 4\text{世帯}) + (1,000\text{万円} \times 2\text{世帯})}{\text{全}5\text{世帯}} = 440\text{万円}$$

保険金・給付金の種類別の特色についてみると次のとおりである。

#### ① 普通死亡保険金

死亡時期により受取金額が異なる場合、現時点での金額で計算されている。また、死亡保険金を年金で受け取る契約や特約に加入している場合には、総受取金額で計算されている。

#### ② 疾病入院給付金日額

ガンのみを対象とした入院や成人病等の特定疾病を対象とした入院のみに限定して支払われる入院給付金は含まれていない。

## (2) 世帯主の加入金額とは

世帯主が、普通死亡保険金、疾病入院給付金日額の各保障毎に、それを受け取れる生命保険に加入している各世帯における、世帯主の各保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。(普通死亡保険金の例)

$$\text{世帯主の普通死亡保険金額} = \frac{\text{世帯主の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{世帯主が普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

\* 疾病入院給付金日額も同様の計算方法で算出している。

世帯主の加入金額を計算する際には、家族特約で保障されている金額も含めている。また、被保険者である世帯主が主たる被保険者でない場合も当該世帯の数にカウントしている。

なお、全生保の世帯主の加入金額が特定の1機関の世帯主の加入金額を下回ることがあるのは、前述のとおりである。

## (3) 妻の加入金額とは

妻(男性世帯主の配偶者)が、普通死亡保険金、疾病入院給付金日額の各保障毎に、それを受け取れる生命保険に加入している各世帯における、妻の各保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。(普通死亡保険金の例)

$$\text{妻の普通死亡保険金額} = \frac{\text{妻の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{妻が普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

\* 疾病入院給付金日額も同様の計算方法で算出している。

妻の加入金額を計算する際には、家族特約で保障されている金額も含めている。また、被保険者である妻が主たる被保険者でない場合も当該世帯の数にカウントしている。

なお、全生保の妻の加入金額が特定の1機関の妻の加入金額を下回ることがあるのは、前述のとおりである。

(ア) 普通死亡保険金

(a) 世帯の普通死亡保険金

世帯の普通死亡保険金額（全生保）の平均は2,255万円（前回2,423万円）と前回に比べ168万円減少した。

これを機関別にみると、民保では2,079万円（前回2,335万円）、簡保は491万円（前回540万円）、JAは1,867万円（前回1,773万円）、県民共済・生協等は731万円（前回735万円）となっている。

時系列でみると、民保は減少傾向が続いており、前回から256万円の減少となっている。（図表 I - 29）

〈図表 I - 29〉 世帯の普通死亡保険金額

(万円)

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
平成30年	2,255 (▲168)	2,079 (▲256)	551 (▲15)	491 (▲49)	1,867 (+94)	731 (▲4)
平成27年	2,423 (▲340)	2,335 (▲171)	566 (+18)	540 (▲48)	1,773 (▲520)	735 (▲95)
平成24年	2,763 (▲215)	2,506 (▲252)	548 (▲58)	588 (▲88)	2,293 (+1)	830 (▲31)
平成21年	2,978 (▲366)	2,758 (▲297)	606 —	676 (▲33)	2,292 (▲484)	861 (+85)
平成18年	3,344 (▲402)	3,055 (▲386)	— —	709 (▲103)	2,776 (+209)	776 (▲29)

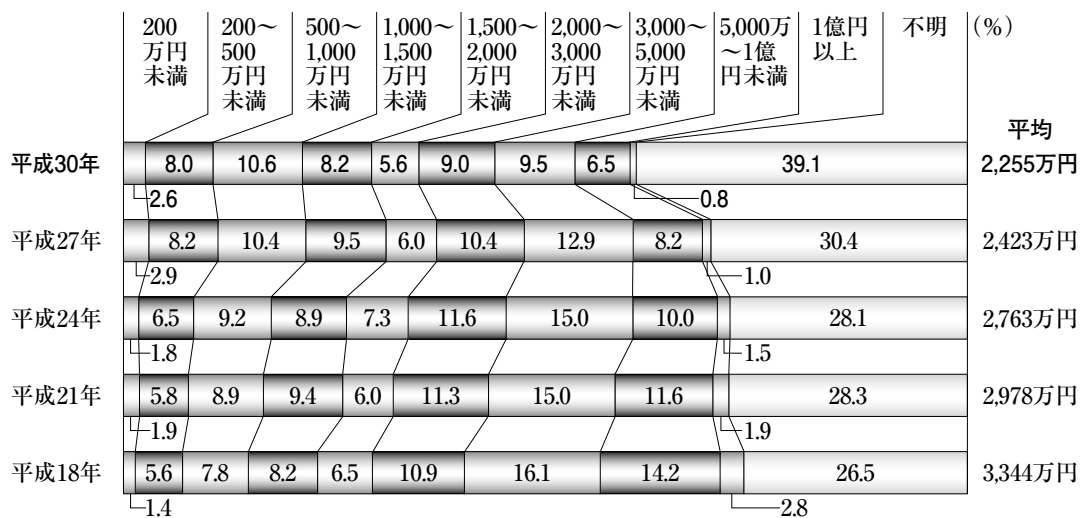
\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*（ ）は前回調査との差

世帯の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「500～1,000万円未満」が10.6%と最も多く、以下「3,000～5,000万円未満」（9.5%）、「2,000～3,000万円未満」（9.0%）が続いている。

時系列でみると、「3,000～5,000万円未満」（前回12.9%）が3.4ポイント、「5,000万～1億円未満」（前回8.2%）が1.7ポイント、「1,000～1,500万円未満」（前回9.5%）が1.3ポイント、それぞれ減少している。（図表 I - 30）

〈図表 I - 30〉 世帯の普通死亡保険金額（全生保）



\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む



全生保の世帯普通死亡保険金額について世帯主年齢別にみると、「50～54歳」で最も高く3,183万円となっている。

時系列でみると、「35～39歳」、「40～44歳」、「50～54歳」、「55～59歳」の層では平成18年以降一貫して減少傾向が続いている。(図表 I - 31)

〈図表 I - 31〉 世帯の普通死亡保険金額（全生保）（世帯主年齢別）  
(万円)

	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年
全 体	3,344	2,978	2,763	2,423	2,255
29歳以下	3,082	2,583	1,902	2,405	2,475
30～34歳	3,186	3,082	3,126	3,093	2,883
35～39歳	3,848	3,636	3,203	3,050	2,857
40～44歳	4,238	4,130	3,760	3,277	3,032
45～49歳	4,506	3,822	3,918	3,287	3,050
50～54歳	4,405	3,932	3,789	3,388	3,183
55～59歳	4,041	3,543	3,202	3,175	2,618
60～64歳	3,021	2,684	2,545	2,362	2,493
65～69歳	2,153	2,032	1,725	1,799	1,615
70～74歳	2,066	1,881	1,661	1,288	1,367
75～79歳	1,303	1,663	1,586	989	1,210
80～84歳	2,374	1,522	1,214	1,411	1,059
85～89歳	2,635	925	2,074	692	1,019
90歳以上	216	2,316	1,200	1,802	1,336

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯普通死亡保険金額について世帯主年齢別にみると、「40～44歳」で最も高く2,968万円となっている。

時系列でみると、「35～39歳」、「40～44歳」、「50～54歳」の層では平成18年以降減少傾向が続いている。(図表 I - 32)

〈図表 I - 32〉 世帯の普通死亡保険金額 (民保) (世帯主年齢別)  
(万円)

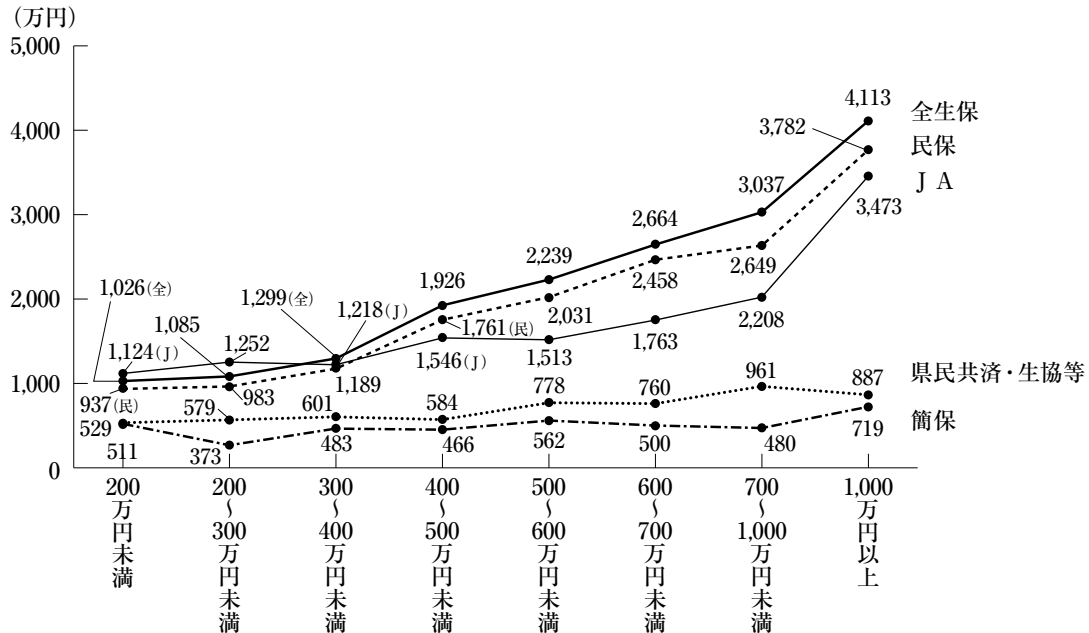
	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年
全 体	3,055	2,758	2,506	2,335	2,079
29歳以下	2,843	2,639	1,845	2,337	2,289
30～34歳	3,221	3,009	3,042	3,145	2,728
35～39歳	3,782	3,297	3,088	2,921	2,666
40～44歳	4,164	3,834	3,460	2,981	2,968
45～49歳	3,991	3,370	3,621	3,214	2,721
50～54歳	3,946	3,617	3,314	3,215	2,850
55～59歳	3,380	3,096	2,806	3,032	2,320
60～64歳	2,723	2,406	2,078	2,215	2,296
65～69歳	1,804	1,785	1,540	1,766	1,534
70～74歳	1,565	1,721	1,435	1,211	1,209
75～79歳	1,044	1,604	1,413	972	1,172
80～84歳	2,374	1,435	1,245	1,351	979
85～89歳	2,755	1,448	1,976	646	1,044
90歳以上	182	2,067	1,333	1,986	1,459

\* 全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* 90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保と民保ともに世帯年収が高くなるほど加入金額も高く、世帯年収「1,000万円以上」では、全生保が4,113万円、民保が3,782万円となっている。(図表 I - 33)

〈図表 I - 33〉 世帯の普通死亡保険金額 (世帯年収別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
 \*簡保、JAの200万円未満はサンプルが30未満

(b) 世帯員の普通死亡保険金

(i) 世帯主の普通死亡保険金

世帯主の普通死亡保険金額 (全生保) の平均は、1,406万円 (前回1,509万円) と前回に比べ103万円減少した。

これを機関別にみると、民保では1,368万円 (前回1,522万円)、簡保は351万円 (前回411万円)、JAは1,280万円 (前回1,350万円)、県民共済・生協等は495万円 (前回521万円) となっている。

時系列でみると、民保では減少傾向が続いており、前回から154万円減少している。(図表 I - 34)

〈図表 I - 34〉 世帯主の普通死亡保険金額

(万円)

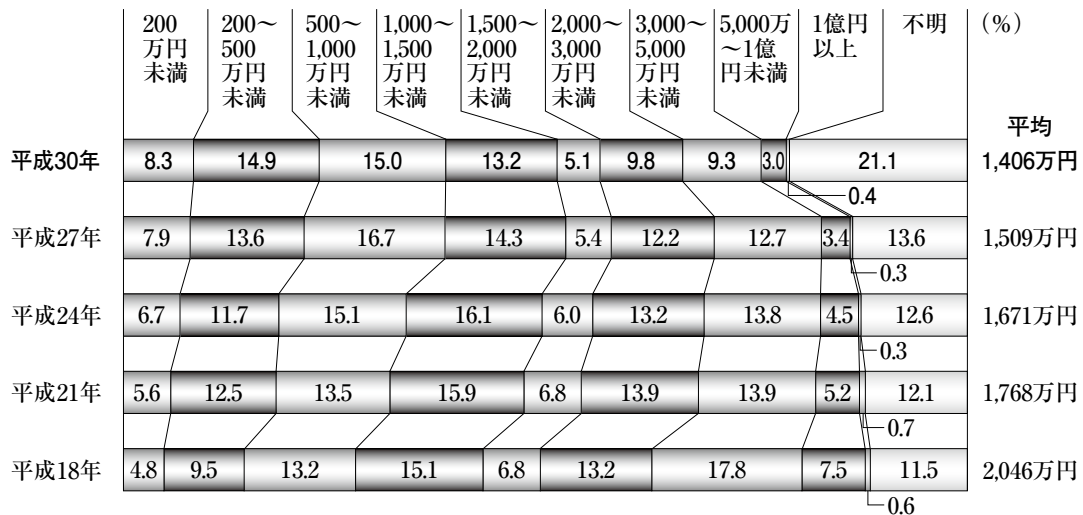
	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
平成30年	1,406 (▲103)	1,368 (▲154)	400 (▲22)	351 (▲60)	1,280 (▲70)	495 (▲26)
平成27年	1,509 (▲162)	1,522 (▲133)	422 (▲6)	411 (▲11)	1,350 (▲171)	521 (▲77)
平成24年	1,671 (▲97)	1,655 (▲132)	428 (+8)	422 (▲23)	1,521 (▲103)	598 (+15)
平成21年	1,768 (▲278)	1,787 (▲235)	420 —	445 (▲38)	1,624 (▲116)	583 (+16)
平成18年	2,046 (▲267)	2,022 (▲370)	— —	483 (▲54)	1,740 (+103)	567 (+9)

\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
 \* ( ) は前回調査との差

世帯主の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「500～1,000万円未満」が15.0%と最も多く、以下「200～500万円未満」（14.9%）、「1,000～1,500万円未満」（13.2%）の順で続いている。

時系列でみると、「3,000～5,000万円未満」（前回12.7%）が3.4ポイント、「2,000～3,000万円未満」（前回12.2%）が2.4ポイント、それぞれ減少している。（図表 I - 35）

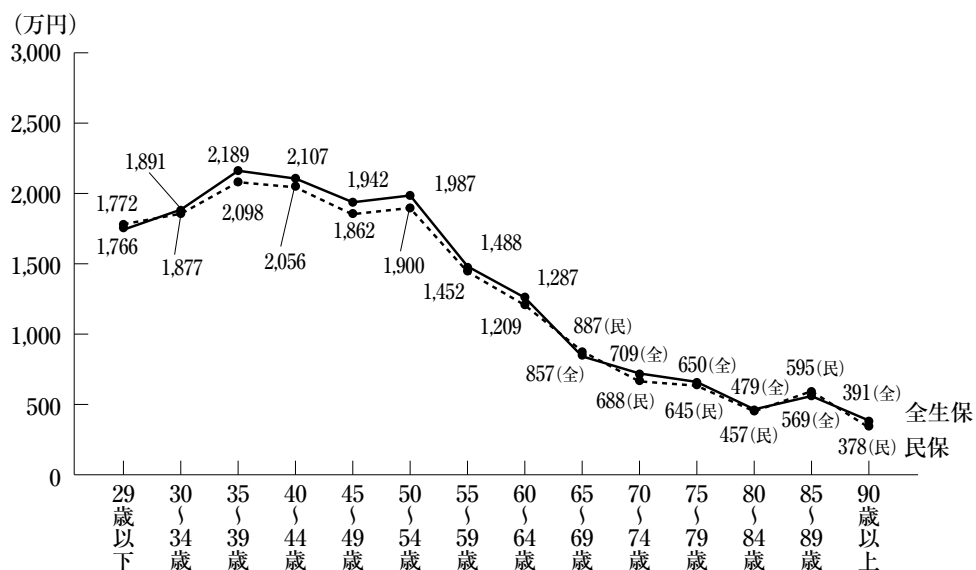
〈図表 I - 35〉 世帯主の普通死亡保険金額（全生保）



\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保と民保ともに「35～39歳」で最も高く、全生保は2,189万円、民保は2,098万円となっている。（図表 I - 36）

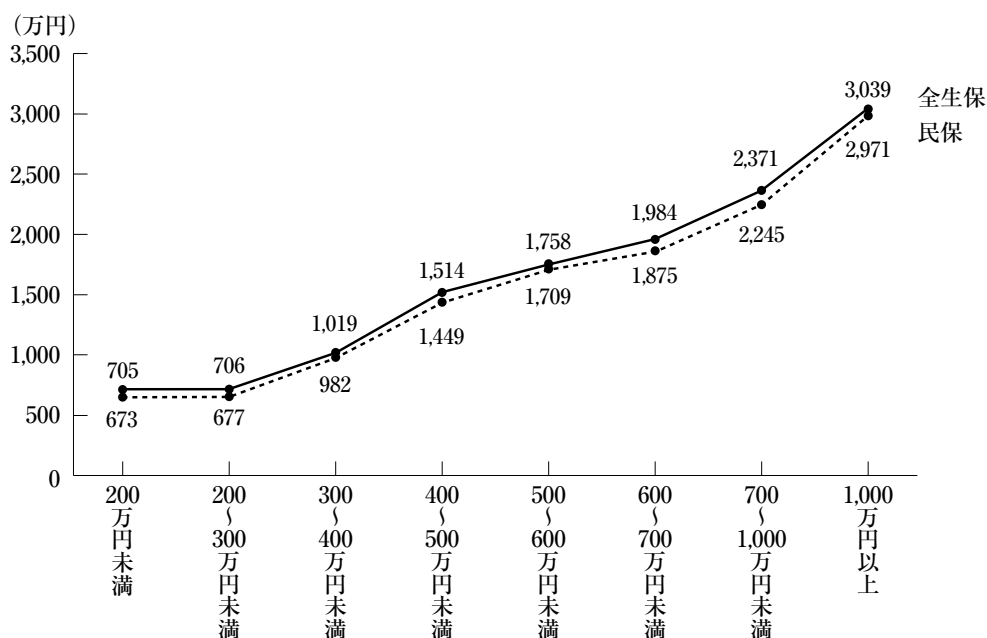
〈図表 I - 36〉 世帯主の普通死亡保険金額（世帯主年齢別）



\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
\*90歳以上はサンプルが30未満

世帯主年収別にみると、全生保と民保いずれも年収が高くなるほど加入金額も高くなっており、世帯主年収「1,000万円以上」では、全生保が3,039万円、民保が2,971万円となっている。(図表 I - 37)

〈図表 I - 37〉 世帯主の普通死亡保険金額 (世帯主年収別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

## (ii) 妻の普通死亡保険金

妻の普通死亡保険金額 (全生保) の平均は、758万円 (前回807万円) と前回に比べ49万円減少している。

これを機関別にみると、民保では708万円 (前回777万円)、簡保は309万円 (前回348万円)、JAは935万円 (前回901万円)、県民共済・生協等は338万円 (前回328万円) となっている。(図表 I - 38)

〈図表 I - 38〉 妻の普通死亡保険金額

(万円)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
平成30年	758 (▲49)	708 (▲69)	334 (▲16)	309 (▲39)	935 (+34)	338 (+10)
平成27年	807 (▲82)	777 (▲44)	350 (▲5)	348 (▲25)	901 (▲161)	328 (▲77)
平成24年	889 (+3)	821 (▲9)	355 (+27)	373 (▲11)	1,062 (▲33)	405 (+12)
平成21年	886 (▲116)	830 (▲94)	328 —	384 (▲14)	1,095 (▲181)	393 (+25)
平成18年	1,002 (▲74)	924 (▲117)	— —	398 (▲46)	1,276 (+202)	368 (▲24)

\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* ( ) は前回調査との差

妻の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「200～500万円未満」が21.4%と最も多く、以下「500～1,000万円未満」（16.9%）、「1,000～1,500万円未満」（12.5%）が続いている。（図表 I - 39）

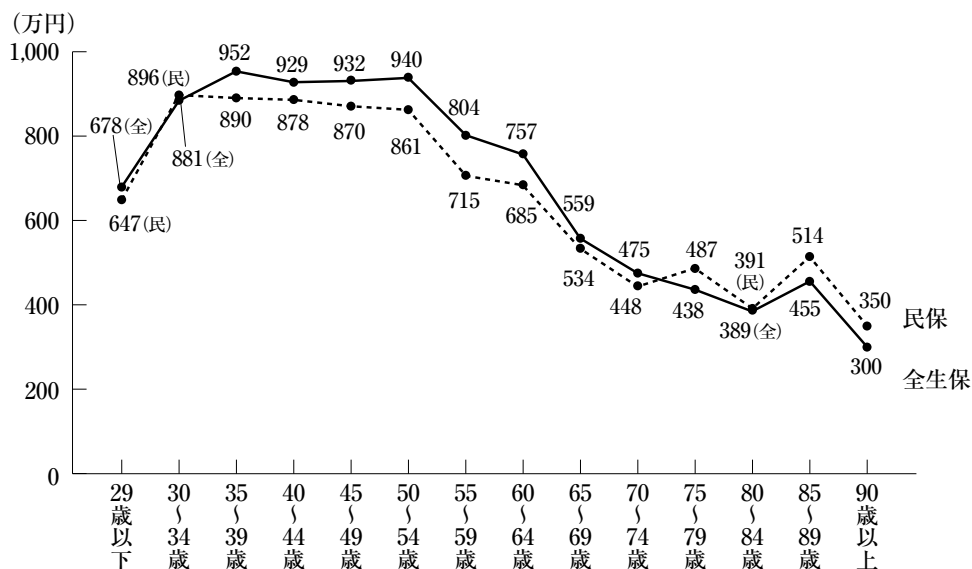
〈図表 I - 39〉 妻の普通死亡保険金額（全生保）

	200万円未満	200～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	1,500～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	不明	(%)
平成30年	11.6	21.4	16.9	12.5	3.3	4.6	2.3	27.5	平均 758万円
平成27年	12.5	19.5	20.1	14.7	4.7	5.4	2.9	20.2	807万円
平成24年	10.9	21.1	20.4	16.0	5.2	6.9	3.6	15.8	889万円
平成21年	10.5	20.5	20.1	17.2	4.3	6.6	4.1	16.6	886万円
平成18年	8.4	19.7	21.2	16.5	6.3	7.9	5.4	14.7	1,002万円

\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

妻の年齢別にみると、全生保は「35～39歳」で952万円、民保は「30～34歳」で896万円と、それぞれ最も高くなっている。（図表 I - 40）

〈図表 I - 40〉 妻の普通死亡保険金額（妻の年齢別）

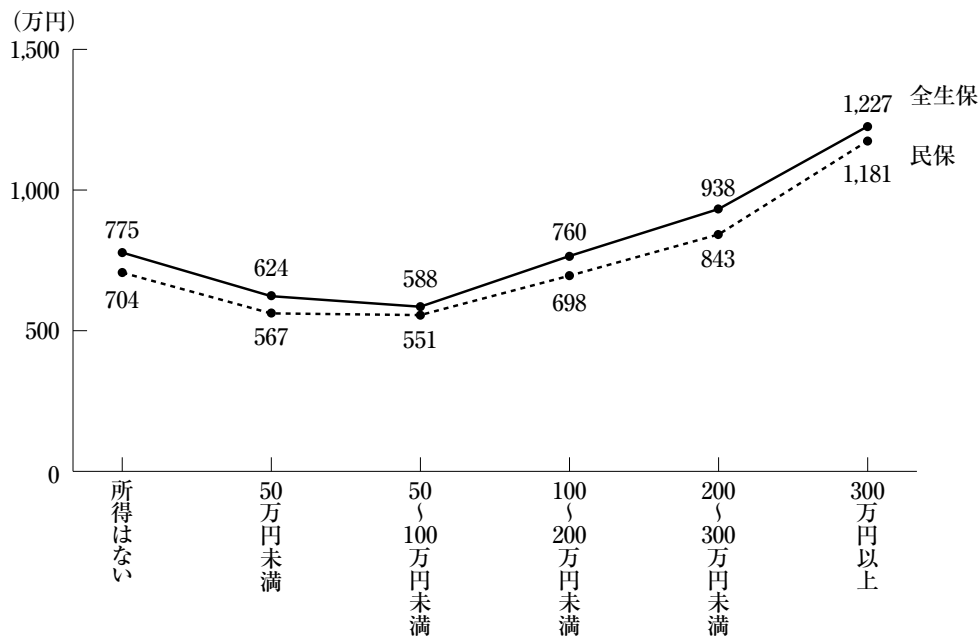


\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* 85～89歳、90歳以上はサンプルが30未満

妻の年収別にみると、全生保と民保ともに「300万円以上」で最も高く、全生保が1,227万円、民保が1,181万円となっている。(図表 I - 41)

〈図表 I - 41〉 妻の普通死亡保険金額 (妻の年収別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 疾病入院給付金

(a) 世帯員の疾病入院給付金

(i) 世帯主の疾病入院給付金

世帯主の疾病入院給付金日額 (全生保) の平均は、9.9千円 (前回9.6千円) と前回に比べ0.3千円増加している。

これを機関別にみると、民保では9.1千円 (前回8.9千円)、簡保は5.7千円 (前回5.9千円)、JAは7.6千円 (前回7.4千円)、県民共済・生協等は6.2千円 (前回6.2千円) となっている。(図表 I - 42)

〈図表 I - 42〉 世帯主の疾病入院給付金日額

(千円)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
平成30年	9.9 (+0.3)	9.1 (+0.2)	6.1 (▲0.1)	5.7 (▲0.2)	7.6 (+0.2)	6.2 ( 0.0)
平成27年	9.6 (▲0.4)	8.9 (▲0.3)	6.2 (▲0.1)	5.9 (▲0.3)	7.4 (▲0.2)	6.2 (+0.1)
平成24年	10.0 (▲0.4)	9.2 ( 0.0)	6.3 (▲0.6)	6.2 (▲0.4)	7.6 (+0.2)	6.1 (▲0.1)
平成21年	10.4 (▲0.3)	9.2 (▲0.2)	6.9 —	6.6 (▲0.1)	7.4 (▲0.2)	6.2 (+0.5)
平成18年	10.7 (▲3.1)	9.4 (+0.6)	— —	6.7 (+0.2)	7.6 (+0.4)	5.7 (+0.7)

\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* ( ) は前回調査との差

世帯主の疾病入院給付金日額（全生保）の分布をみると、「5千～7千円未満」が最も多く24.2%、次いで「1万～1万5千円未満」が23.3%となっている。

時系列でみると、「1万～1万5千円未満」（前回27.5%）が4.2ポイント、「7千～1万円未満」（前回7.9%）が1.6ポイント減少している。（図表 I - 43）

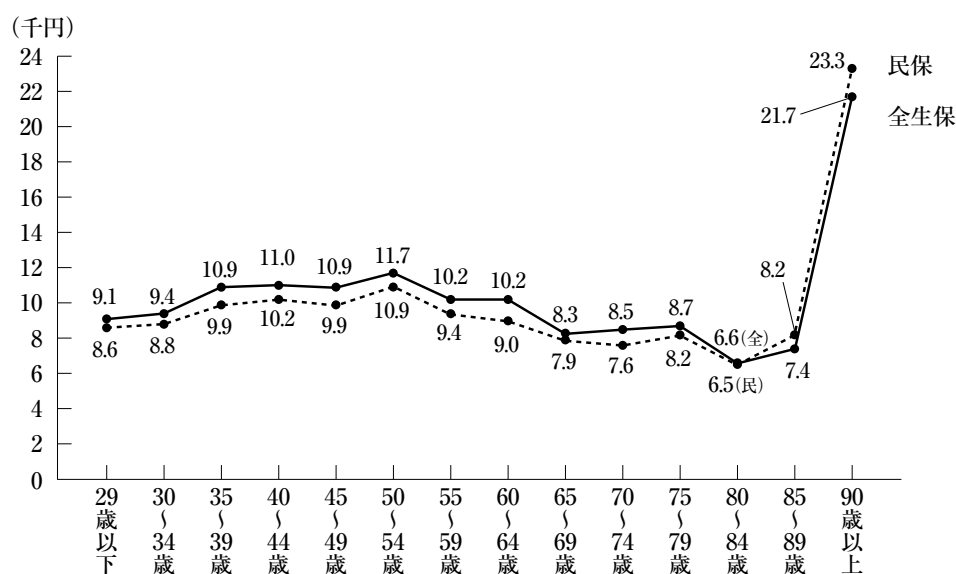
〈図表 I - 43〉 世帯主の疾病入院給付金日額（全生保）

	3千円未満	3千～5千円未満	5千～7千円未満	7千～1万円未満	1万～1万5千円未満	1万5千～2万円未満	2万円以上	不明	平均
平成30年	5.1	24.2	6.3	23.3	6.5	7.1	25.6		9.9千円
	↓1.9								
平成27年	4.6	26.1	7.9	27.5	7.5	6.6	17.9		9.6千円
	↓1.8								
平成24年	3.5	24.1	7.2	30.8	7.5	7.7	17.0		10.0千円
	↓2.1								
平成21年	3.3	23.5	7.9	29.4	8.5	9.0	16.4		10.4千円
	↓2.0								
平成18年	3.9	25.2	7.7	29.9	10.5	10.7	10.3		10.7千円
	↓1.8								

\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「50～54歳」で全生保が11.7千円、民保が10.9千円と高くなっている。（図表 I - 44）

〈図表 I - 44〉 世帯主の疾病入院給付金日額（世帯主年齢別）



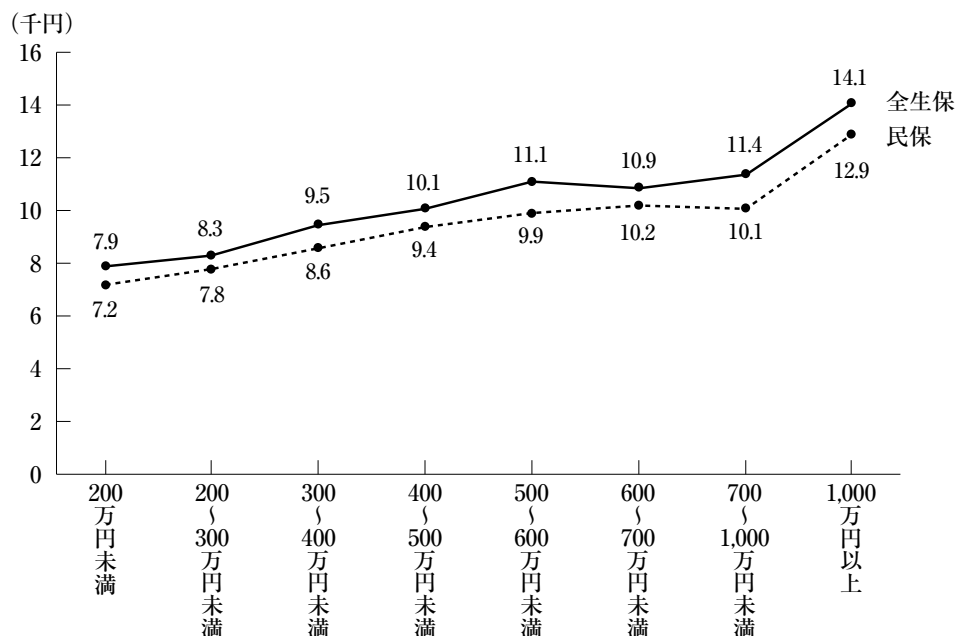
\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* 90歳以上はサンプルが30未満



世帯主年収別にみると、全生保と民保ともに概ね年収が高くなるほど加入金額が高く、全生保では「400万円以上」の層、民保では「600万円以上」の層でそれぞれ1万円台となっている。(図表 I - 45)

〈図表 I - 45〉 世帯主の疾病入院給付金日額 (世帯主年収別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

## (ii) 妻の疾病入院給付金

妻の疾病入院給付金日額 (全生保) の平均は、8.4千円 (前回8.3千円) となっている。

これを機関別にみると、民保では7.6千円 (前回7.5千円)、簡保は5.2千円 (前回5.2千円)、JAは6.7千円 (前回6.8千円)、県民共済・生協等は5.5千円 (前回5.3千円) となっている。(図表 I - 46)

〈図表 I - 46〉 妻の疾病入院給付金日額

(千円)

	全生保	民保	かんぽ生命	簡保	JA	県民共済・生協等
平成30年	8.4 (+0.1)	7.6 (+0.1)	5.5 (+0.3)	5.2 ( 0.0)	6.7 (▲0.1)	5.5 (+0.2)
平成27年	8.3 (▲0.2)	7.5 (▲0.2)	5.2 (▲0.2)	5.2 (▲0.1)	6.8 (▲0.1)	5.3 (+0.1)
平成24年	8.5 ( 0.0)	7.7 (+0.4)	5.4 (+0.6)	5.3 (▲0.3)	6.9 (+0.5)	5.2 (▲0.2)
平成21年	8.5 (▲0.3)	7.3 (▲0.1)	4.8 —	5.6 (▲0.3)	6.4 (▲0.3)	5.4 (+0.4)
平成18年	8.8 (+0.9)	7.4 (+0.7)	— —	5.9 (+0.3)	6.7 (+0.8)	5.0 (+0.6)

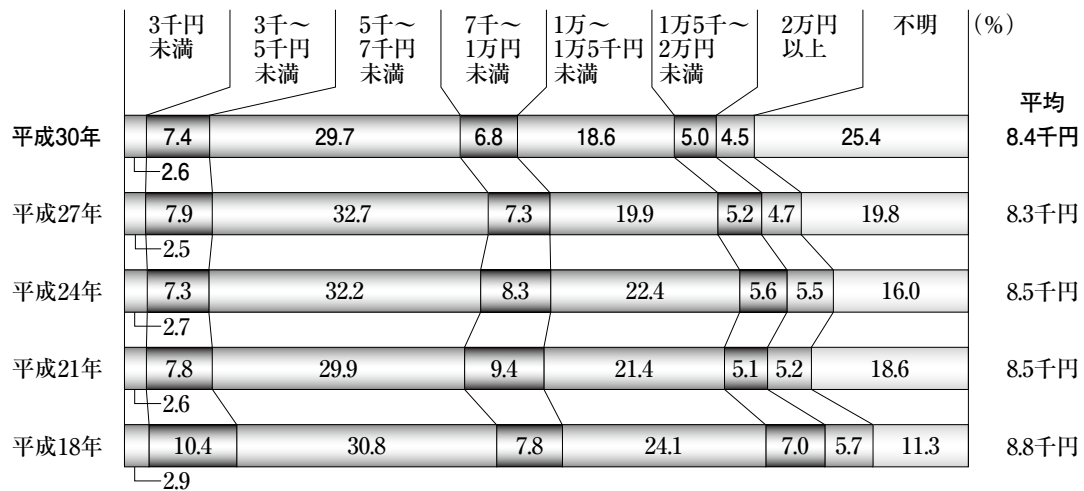
\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* ( ) は前回調査との差

妻の疾病入院給付金日額（全生保）の分布をみると、「5千～7千円未満」が29.7%と最も多く、「1万～1万5千円未満」（18.6%）が続いている。

時系列でみると、「5千～7千円未満」が減少している傾向にある。（図表 I - 47）

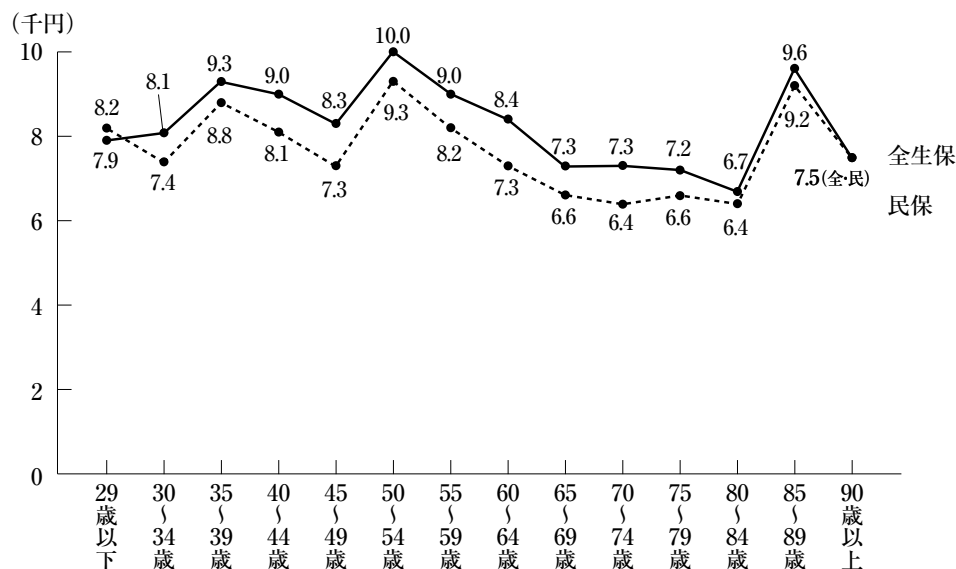
〈図表 I - 47〉 妻の疾病入院給付金日額（全生保）



\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

妻の年齢別にみると、全生保、民保ともに「50～54歳」で全生保が10.0千円、民保が9.3千円と高くなっている。（図表 I - 48）

〈図表 I - 48〉 妻の疾病入院給付金日額（妻の年齢別）

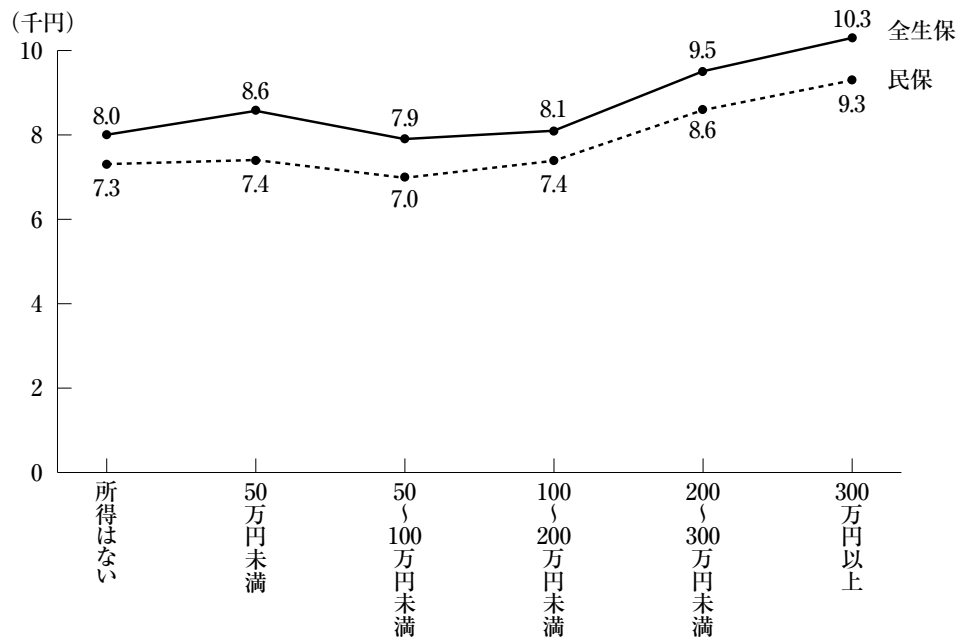


\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* 85～89歳、90歳以上はサンプルが30未満

妻の年収別にみると、全生保と民保ともに「300万円以上」で最も高く、全生保が10.3千円、民保が9.3千円となっている。(図表 I - 49)

〈図表 I - 49〉 妻の疾病入院給付金日額 (妻の年収別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

#### (4) 生命保険（個人年金保険を含む）の世帯年間払込保険料

##### 世帯年間払込保険料とは

生命保険（個人年金保険を含む）に加入している世帯における保険料払込期間中（本調査時点）の契約について、1年間に払い込む保険料の世帯総額の平均額を示している。これを式に表すと次のとおりである。

$$\text{世帯年間払込保険料} = \frac{\text{全世帯員の年間払込保険料の総合計}}{\text{生命保険に加入している世帯数}}$$

- (a) 「保険料払込期間中の契約」には、一時払いで払い込んだ保険料、頭金制度を利用して払い込んだ保険料、払込が完了している契約の既払込保険料を含めていない。
- (b) 配当金の分だけ保険料の払込が少なくなる契約は、実際に払い込んだ保険料（実質負担額）を集計対象としている。
- (c) 世帯年間払込保険料の中には個人年金保険の保険料も含まれている。

世帯の平均年間払込保険料（全生保）は、38.2万円（前回38.5万円）となっている。

これを機関別にみると、民保では36.2万円（前回37.0万円）、簡保は22.8万円（前回22.2万円）、JAは25.2万円（前回27.7万円）、県民共済・生協等は7.7万円（前回8.2万円）となっている。（図表 I - 50）

〈図表 I - 50〉 世帯年間払込保険料

(万円)

	全生保	民保	かんぽ 生命	簡保	JA	県民共済・ 生協等
平成30年	38.2 (▲0.3)	36.2 (▲0.8)	29.1 (+2.9)	22.8 (+0.6)	25.2 (▲2.5)	7.7 (▲0.5)
平成27年	38.5 (▲3.1)	37.0 (+0.5)	26.2 (+2.8)	22.2 (▲1.9)	27.7 (▲2.7)	8.2 ( 0.0)
平成24年	41.6 (▲3.8)	36.5 (▲0.9)	23.4 (▲1.5)	24.1 (▲4.4)	30.4 (+0.3)	8.2 (▲0.2)
平成21年	45.4 (▲7.2)	37.4 (▲2.2)	24.9 —	28.5 (▲1.4)	30.1 (▲0.3)	8.4 (+0.7)
平成18年	52.6 (▲0.7)	39.6 (+0.9)	— —	29.9 (▲0.6)	30.4 (+0.7)	7.7 ( 0.0)

\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\* ( ) は前回調査との差

世帯年間払込保険料（全生保）の分布をみると、「12～24万円未満」が16.0%と最も多く、「12万円未満」（14.8%）、「24～36万円未満」（12.9%）が続いている。

時系列でみると「12～24万円未満」（前回19.0%）、「24～36万円未満」（前回15.9%）がともに3.0ポイント、「48～60万円未満」（前回7.7%）が1.3ポイント、「60～72万円未満」（前回5.3%）が1.1ポイント、それぞれ減少している。（図表 I - 51）

〈図表 I - 51〉 世帯年間払込保険料（全生保）

	12万円未満	12～24万円未満	24～36万円未満	36～48万円未満	48～60万円未満	60～72万円未満	72～84万円未満	84万円以上	不明	(%)
平成30年	14.8	16.0	12.9	9.8	6.4	4.2	5.8	28.0		平均 38.2万円
平成27年	15.9	19.0	15.9	10.5	7.7	5.3	2.9	6.9	16.0	38.5万円
平成24年	13.9	17.7	16.4	12.0	7.8	6.1	3.3	8.1	14.6	41.6万円
平成21年	13.9	16.2	15.4	11.1	8.8	6.3	3.8	9.8	14.8	45.4万円
平成18年	11.1	14.1	14.8	11.7	8.6	7.5	4.9	14.2	13.0	52.6万円

\* 全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

全生保の世帯の平均年間払込保険料について世帯主年齢別にみると、「50～54歳」で最も高く、48.3万円となっている。

時系列でみると、「45～49歳」、「55～59歳」、「65～69歳」、「70～74歳」の層では平成18年以降減少傾向が続いている。(図表 I - 52)

〈図表 I - 52〉 世帯年間払込保険料（全生保）（世帯主年齢別）

(万円)

	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年
全 体	52.6	45.4	41.6	38.5	38.2
29歳以下	26.0	31.7	20.2	24.2	23.3
30～34歳	36.4	33.1	31.0	27.6	29.8
35～39歳	39.7	37.0	31.7	32.9	38.0
40～44歳	54.8	46.9	40.3	41.0	34.5
45～49歳	59.8	51.3	46.2	44.2	42.7
50～54歳	58.1	47.6	51.8	49.8	48.3
55～59歳	60.4	55.1	51.3	49.2	45.3
60～64歳	58.3	48.2	43.4	43.4	43.9
65～69歳	53.4	42.1	39.4	33.9	33.8
70～74歳	52.9	43.1	36.9	30.7	29.9
75～79歳	45.3	43.8	32.9	30.0	35.3
80～84歳	30.6	48.7	43.9	30.6	29.5
85～89歳	65.1	16.9	73.9	21.1	36.5
90歳以上	12.2	64.2	23.6	21.4	22.5

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

\*90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯の平均年間払込保険料について世帯主年齢別にみると、「60～64歳」で最も高く44.5万円となっている。

前回と比較すると、「35～39歳」、「60～64歳」、「75～79歳」の層では5万円以上増加し、「50～54歳」、「55～59歳」の層では5万円以上減少している。（図表 I - 53）

〈図表 I - 53〉 世帯年間払込保険料（民保）（世帯主年齢別）

(万円)

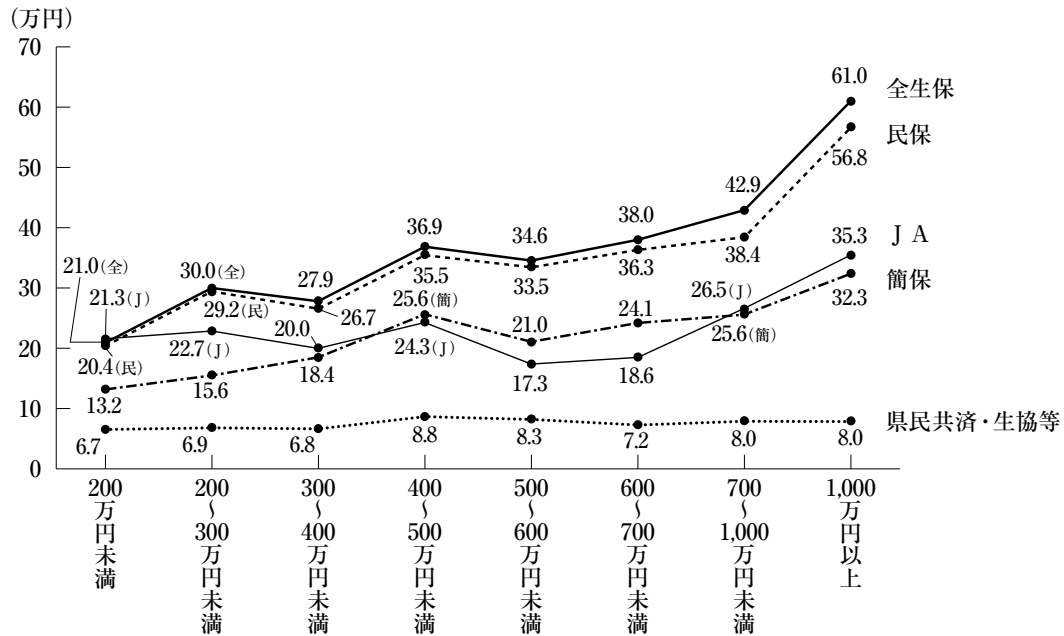
	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年
全 体	39.6	37.4	36.5	37.0	36.2
29歳以下	23.2	33.8	22.0	25.1	24.2
30～34歳	31.0	29.5	30.4	26.1	27.9
35～39歳	33.2	31.9	28.3	32.0	37.3
40～44歳	44.2	39.5	35.6	38.4	33.6
45～49歳	46.0	38.7	40.0	40.7	39.9
50～54歳	43.7	38.0	46.2	50.0	43.8
55～59歳	44.4	45.9	43.5	47.4	41.8
60～64歳	43.9	40.6	38.4	38.9	44.5
65～69歳	34.8	32.6	33.6	33.8	32.1
70～74歳	37.1	34.6	30.6	31.5	26.8
75～79歳	28.8	33.5	31.4	27.5	32.8
80～84歳	23.7	44.2	34.0	30.7	28.3
85～89歳	43.1	18.3	68.3	17.4	38.9
90歳以上	12.7	37.2	21.2	21.7	23.6

\* かんぽ生命を含む

\* 90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保、民保とも概ね世帯年収が高くなるほど払込保険料が高くなっており、世帯年収「1,000万円以上」では全生保が61.0万円、民保が56.8万円となっている。(図表 I - 54)

〈図表 I - 54〉 世帯年間払込保険料 (世帯年収別)



\*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む  
 \*簡保、JAの200万円未満はサンプルが30未満



## (5) 世帯年間払込保険料対世帯年収比率

### 世帯年間払込保険料対世帯年収比率とは

生命保険（個人年金保険を含む）に加入している世帯における、世帯年間払込保険料の世帯年収に占める割合のことで、サンプル（世帯）ごとにこの比率を計算したものを合計し、生命保険に加入している世帯数で除することによって算出している。これを式で表すと次のとおりである。

$$\text{世帯年間払込保険料対世帯年収比率} = \frac{\sum (\text{各サンプルの世帯年間払込保険料} / \text{各サンプルの世帯年収})}{\text{生命保険に加入している世帯数}} \times 100$$

生命保険（個人年金保険を含む）加入世帯における年間払込保険料の世帯年収に占める割合をみると、全生保では7.2%（前回7.4%）、民保では6.7%（前回7.0%）となっている。（図表 I - 55）

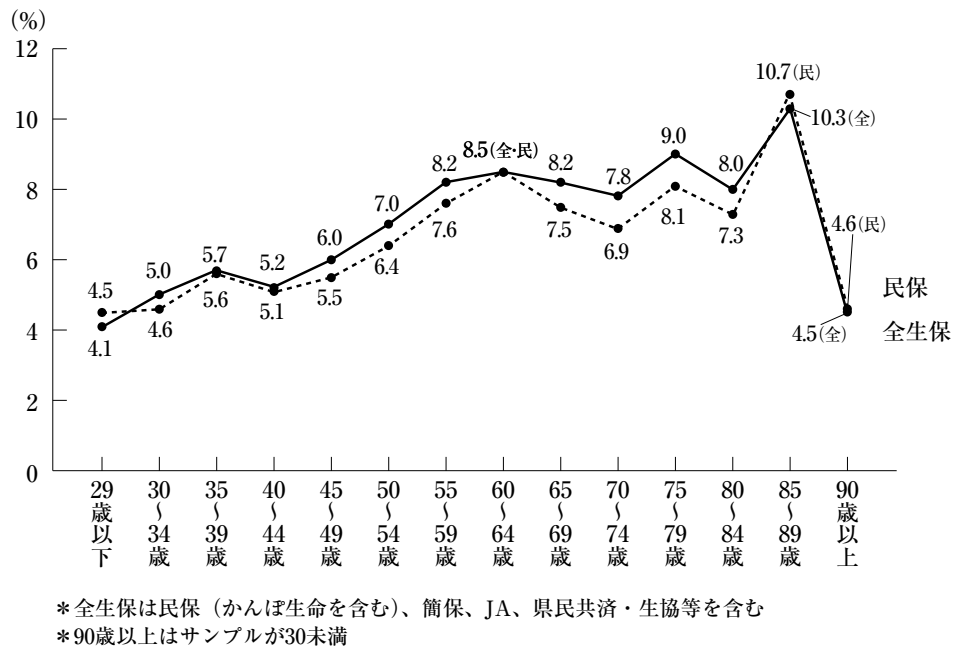
〈図表 I - 55〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率  
(%)

	全生保	民保
平成30年	7.2	6.7
平成27年	7.4	7.0
平成24年	8.0	6.9
平成21年	8.7	7.1
平成18年	9.5	7.0

\*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

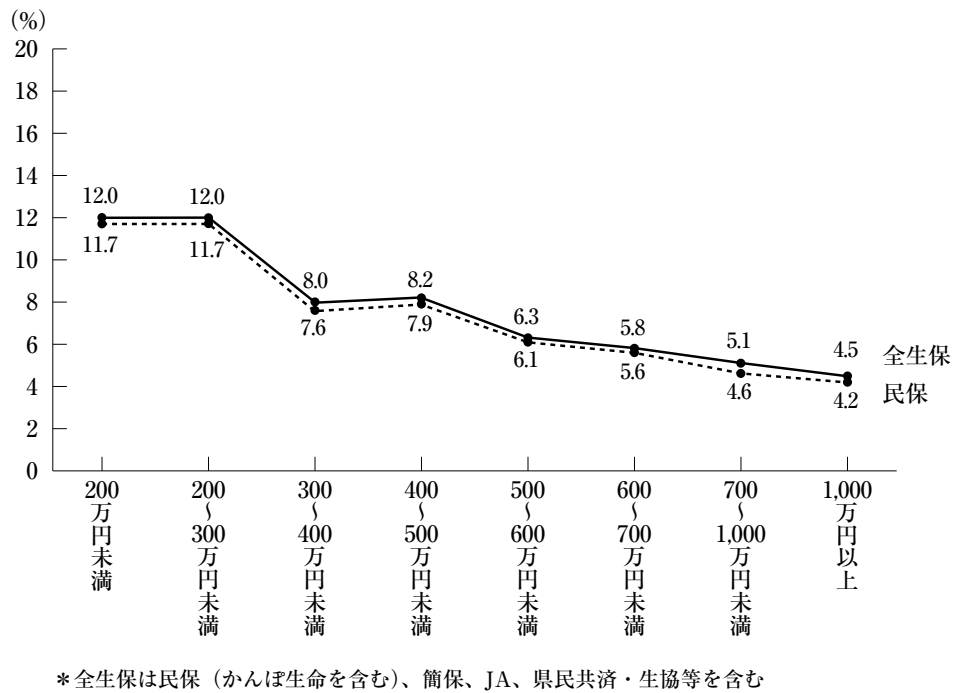
世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「85～89歳」で1割を超えている。(図表 I - 56)

〈図表 I - 56〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率 (世帯主年齢別)



世帯年収別にみると、全生保、民保ともに「300万円未満」の層では1割を超えている。(図表 I - 57)

〈図表 I - 57〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率 (世帯年収別)

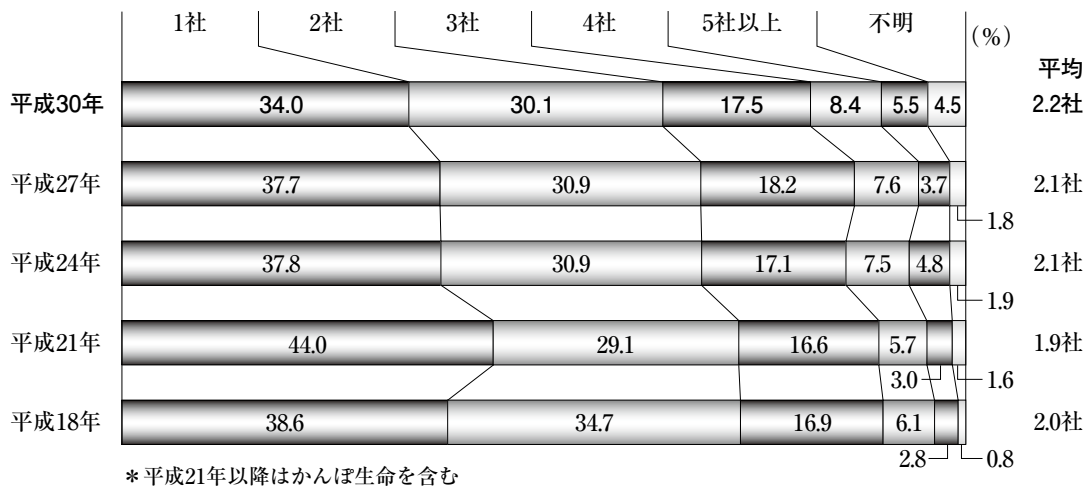


## (6) 民保の加入会社数

民保加入世帯（かんぽ生命を含む）における加入会社数をみると、「1社」34.0%（前回37.7%）、「2社」30.1%（前回30.9%）、「3社」17.5%（前回18.2%）となっている。

前回と比べると、「1社」が3.7ポイント減少し、「5社以上」が1.8ポイント増加している。（図表 I - 58）

〈図表 I - 58〉 民保の加入会社数



民保加入世帯における民保1社あたりの世帯加入件数、世帯普通死亡保険金額、世帯年間払込保険料をみると、世帯加入件数は1.6件（前回1.6件）、世帯普通死亡保険金額は1,171万円（前回1,326万円）、世帯年間払込保険料は18.3万円（前回20.0万円）となっている。

前回と比較すると、世帯普通死亡保険金額が155万円、世帯年間払込保険料が1.7万円、それぞれ減少している。（図表 I - 59）

〈図表 I - 59〉 民保加入世帯における民保1社あたりの世帯加入件数、世帯普通死亡保険金額、世帯年間払込保険料

	世帯加入件数 (件)	世帯普通死亡保険金額 (万円)	世帯年間払込保険料 (万円)
平成30年	1.6 ( 0.0)	1,171 (▲155)	18.3 (▲1.7)
平成27年	1.6 ( 0.0)	1,326 (▲99)	20.0 ( 0.0)
平成24年	1.6 (▲0.1)	1,425 (▲246)	20.0 (▲2.0)
平成21年	1.7 ( 0.0)	1,671 (▲84)	22.0 (▲0.1)
平成18年	1.7 (▲0.1)	1,755 (▲424)	22.1 (▲1.8)

（世帯加入件数、世帯年間払込保険料には個人年金保険を含む）

\*平成21年以降はかんぽ生命を含む

\* ( ) は前回調査との差